

平成 24 年度 群馬県立館林美術館年報

2012.4 - 2013.3



Gunma Museum of Art,
Tatebayashi

群馬県立館林美術館

目次

・展覧会 p.3

A 展覧会一覧	p.3
B 展覧会記録	p.4
C コレクション展示記録	p.32
D 彫刻家のアトリエ(別館)展示記録	p.38
E 観覧者数一覧表	p.39

・教育普及 p.40

A 講演会	p.40
B 作品解説会・ギャラリートーク	p.40
C ワークショップ	p.41
D 創作体験コーナー みんなのアトリエ	p.43
E たてび木曜レクチャー	p.43
F アーティストトーク、パフォーマンス	p.44
G たてび☆びじゅつ部	p.44
H コンサート	p.45
I 他団体への協力	p.45
J 学校連携その他	p.46
K 地域に開かれた美術館づくり	p.48
L 刊行物	p.51
M ボランティア	p.52
N 友の会	p.52

・所蔵資料 p.53

A 美術作品	p.53
B 図書資料その他	p.58

・関係者および職員名簿 p.59

展覧会

A 展覧会一覧

(1)企画展示

展示名	会期、会場	内容
「館林ジャンクションー中央関東の現代美術ー」	4/28-7/1 展示室1-4	館林は、群馬、栃木、茨城、埼玉の4県が交差する関東中央部に位置している。この展覧会は、県境にこだわらず館林とその近隣地域で活躍する現代美術家16人を取り上げ、絵画、立体、インスタレーションなど多彩な表現によりこの地域の美術の現在を紹介した。
「雪と氷 『雪華図説』から近現代の美術まで」	7/21-9/2 展示室2-4	四季に恵まれた日本では雪と氷にまつわる多彩な芸術作品が多く生み出されている。また館林の東部、茨城県古河市には、江戸時代の雪の研究書が残されている。この展覧会は雪と氷の表現を絵画や立体の他、科学的な視点も加えて様々な角度から紹介した。
色めく彫刻ーよみがえる美意識	9/22-12/2 展示室1-4	近代のブロンズにみられるモダンな黒、神殿や社寺彫刻にみられた極彩色、大理石の豪華な白などその色合いはさまざまである。さらに、現代の彫刻家たちは、立体表現に向き合いながら躊躇なく色彩を自らの表現手段に用いている。本展では近現代彫刻の「色」に注目し、彫刻の特性と表現の多様性を紹介した。
「石の鼓動 森亮太」	12/22-4/7 展示室2-4	館林に生まれた彫刻家・森亮太(1952-1993)は、数々の公募展で輝かしい実績を誇り将来を嘱望されながらも、赤城山に新築したアトリエへ向かう途中の交通事故により41歳の若さでこの世を去った。没後20年にあたり、石彫を中心とした森亮太の制作活動を振り返った。

(2)コレクション展示

展示名	会期、会場	内容
油彩・彫刻	4/28-7/1 展示室4	フランソワ・ボンボンなどの彫刻や、ピカソ『真夜中の馬』など、西洋の彫刻・絵画を展示。
近現代の彫刻 I	7/21-9/2 展示室1	フランソワ・ボンボン、ヘンリー・ムーアなど、近現代の彫刻を展示。
油彩その他 I	7/21-9/2 展示室4	山口薫、鶴岡政男など、自然と人を描いた油彩、藤牧義夫、清宮質文などの版画を展示。
油彩その他 II	9/22-12/2 展示室4	パウル・クレーの水彩、マックス・エルンスト、ピエール・アレシンスキーの版画などを展示。
近現代の彫刻 III	12/22-4/7 展示室1	フランソワ・ボンボン、バリー・フラナガン、ジム・ダインなど、近現代の彫刻を展示。
油彩その他 III	12/22-4/7 展示室4	戸谷成雄、伊庭靖子、山口啓介などの現代作家の作品を展示。

1. 館林ジャンクション—中央関東の現代美術—

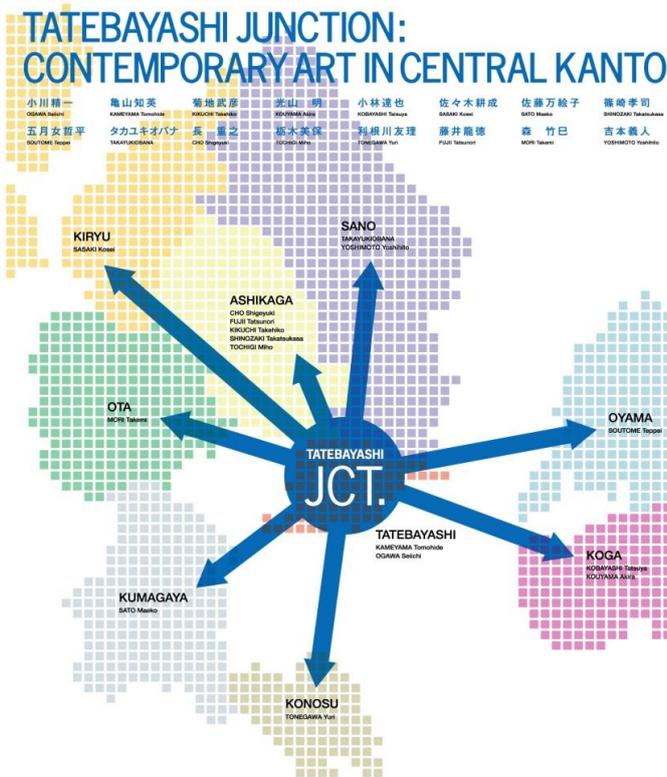
会期 平成24年4月28日(土)～7月1日(日)
 会場 展示室1～4及び美術館屋外スペース
 主催 群馬県立館林美術館
 協力 ユポ・コーポレーション
 観覧料 一般 600(480)円、大高生 300(240)円
 ()内は20名以上の団体割引料金

群馬県立館林美術館が位置する館林市は、群馬県が東に大きく突き出た地域「東毛」に属している。東毛は、渡良瀬川や両毛線、東武鉄道によって古くから強い結びつきを持つ栃木県南西部とともに「両毛」と呼ばれる。東毛地域は南側では利根川を境に埼玉県北部と接し、東では渡良瀬遊水地を挟んで茨城県西部と向かい合っている。

群馬、栃木、埼玉、茨城と4県が交差するこの地域は関東地方のほぼ中央に位置している。県境を越えて独自の経済・文化圏を形成しているが、県単位で見たときにはそれぞれ県の中心から遠く離れ、美術活動という面では決して恵まれた環境にはない。そうであっても、この地域に制作の拠点を置き、活動を続ける作家は少なくない。

この地域は通常、北関東の一部とされるが、この展覧会では「中央関東」という新しい枠組でとらえるべく、当館から25km圏を想定した。「中央関東」がほぼ収まるこの立地を考えたとき、当館が県境を越えてこの地域に目を向けることは、むしろ当然といえる。

本展では、「中央関東」に住んで制作活動を展開している現代美術作家16人をとりあげ、展示室だけでなくギャラリーや館外にもインスタレーションが広がる展示となった。当館が「ジャンクション(Junction)」、すなわち合流点、交差点となることで、「中央関東」から多彩な作家を集めることができた。



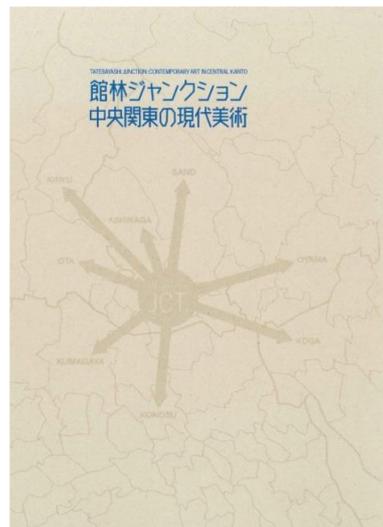
館林ジャンクション 中央関東の現代美術

2012/4/28(土)→7/1(日) 月曜休館(ただし4月30日は開館)

開館時間: 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
 観覧料: 一般 600(480)円、大高生 300(240)円
 ※1) 20名以上の団体割引料金あり ※中学生以下、障害者手帳をお持ちの方と介護者1名は無料
 主催: 群馬県立館林美術館

群馬県立館林美術館
 Gunma Museum of Art, Tatebayashi
 〒374-0276 群馬県館林市白根300
 Tel.0279-72-8188 Fax.0279-72-8338 www.gmat.gun.jp

ポスター



図録



ジュニアガイド

出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法/材質	寸法(高さ×幅×奥行cm)	
1	篠崎孝司	レセプター	1994	陶 (2点)	58×27×27、55×27×27	
2		水源	1995	陶	76×18×26	
3		鳥	1996	陶 (2点)	60×35×35、74×38×38	
4		無題	1997	陶 (2点)	69×35×35、65×30×33	
5		無題	1997	陶	67×42×44	
6		無題	1998	陶	74×42×42	
7		ペー	1999	陶 (2点)	77×37×37、70×46×46	
8		水留音(すいるおん)	2002	陶 (3点)	63×37×37、51×30×30、 41×29.5×29.5	
9		龍音(たつね)	2006	陶 (6点)	35×直径30、34×直径32、 33×直径28、31×直径31、 27×直径24、25×直径23	
10	小川精一	鳥	1988-95	陶 (8点)	44×42×17、53×40×25、 45×41×29、45×46×31、 44×46×29、45×38×28、 45×42×29、44×42×29	
11		枯渴 1	1990頃	陶	37×42×25	
12		枯渴 2	1991頃	陶	46.5×44×26	
13		枯渴 3	1991頃	陶	47×45.5×16.5	
14		不安ボックス 1	1995	陶	49×38×16.5	
15		不安ボックス 2	1997	陶 (2点組)	各48.5×35×24	
16		不安ボックス 3	2012	陶	39.5×33×26.5	
17		枯れる	1993-2012	陶、クギ、板、砂	30×直径300	
18		涸れる	1999	陶、板、砂	5×直径205	
19		吉本義人	DEPENDENCE 2001-1	2001	ステンレススチール	210×475×170
20			DEPENDENCE 2001-15/2007-2	2001/07	ステンレススチール	232×603×80
21			DEPENDENCE 2002-10/2005-1	2002/05	ステンレススチール	335×1500×150
22			空へのドローイング 2009 (1-8)	2009	鉄、溶融亜鉛メッキ、ウレタン塗装	240×1600×40
23		菊地武彦	線の気韻1993-69	1993	岩絵の具、グワッシュ、黒鉛、鉄錆/紙	227×364
24			土の記憶2002-29(季)	2002	岩絵の具、水彩ほか/紙	250×100
25			五十部(よべ)の細道図(冬)	2007	岩絵の具、水彩ほか/紙	200×540
26		亀山知英	武蔵野は	2009	岩絵の具、水彩ほか/紙	240×720
27	Composition petite plaques-VIII-96		1996	エッチング/紙	39.6×106.7	
28	Composition petite plaques-XII-97		1997	エッチング/紙	41.3×105	
29	Composition petite plaques-97-I		1997	エッチング/紙	24×36	
30	Composition petite plaques-97-VI		1997	エッチング/紙	36×39.6	
31	Composition petite plaques-97-VIII		1997	エッチング/紙	32×53.6	
32	Composition elliptique-I		1998	エッチング/紙	78.7×54.2	
33	Composition elliptique-II		1999	エッチング/紙	107×74.7	
34	Composition elliptique-III		1999	エッチング/紙	107×74.7	
35	Composition elliptique-IV		1999	エッチング/紙	79×54	
36	Ellipse-2003-I		2003	版画コラージュ(エッチング、木版、コラグラフ)/紙	130×94	
37	Ellipse-2003-II		2003	版画コラージュ(エッチング、木版、コラグラフ)/紙	130×94	
38	Illusion infini-Ellipse-2004-II		2004	版画コラージュ(エッチング、木版、コラグラフ)/紙	77.3×98.3	
39	Illusion infini-Ellipse-2004-M-I		2004	版画コラージュ(エッチング、木版、コラグラフ)/紙	77.2×52	
40	Illusion infini-Deu× triangle-2004-M-I		2004	版画コラージュ(エッチング、木版、コラグラフ)/紙	76.5×52	
41	Composition triangle-2004-M-II(illusion infini)		2004	版画コラージュ(エッチング、木版、コラグラフ)/紙	77.5×52	
42	Illusion infini Hypothèse 2007-II		2007	版画コラージュ(エッチング、木版、コラグラフ)/紙	105×77.7	
43	Une forme-2007-L-I		2007	版画コラージュ(エッチング、木版、コラグラフ)/紙	76.5×105.5	
44	Une forme-08-III		2008	版画コラージュ(エッチング、木版、コラグラフ)/紙	105×80	
45	Une forme-08-L-V	2008	版画コラージュ(エッチング、木版、コラグラフ)/紙	77×105		

No.	作家名	作品名	制作年	技法/材質	寸法(高さ×幅×奥行cm)
46	亀山知英	Une forme-08-L-VII	2008	版画コラージュ(エッチング、木版、コラグラフ)／紙	80×105
47		Une forme-08-L-VIII	2008	版画コラージュ(エッチング、木版、コラグラフ)／紙	76.5×105.7
48		Une forme-08-L-IX	2008	版画コラージュ(エッチング、木版、コラグラフ)／紙	99×77
49		Une forme-10-L-I	2010	版画コラージュ(エッチング、木版、コラグラフ)／紙	98.5×76
50		Volume installation-2012_Tatebi	2000/08/09/12	版画／紙、ポリスチレンボード	
51	長 重之	視床	1983	断熱材、布、木、アクリル絵具	131×180×5
52		測量士の壁 1	1987	断熱材、布、木、アクリル絵具	252×220×7
53		測量士の壁 2	1987	断熱材、布、木、アクリル絵具	160×208×7
54		迫(はさま)	1988	断熱材、布、木、アクリル絵具	66×114×3
55		笑い続ける二つの州の間で	1990	断熱材、布、木、アクリル絵具	242×146×11.5
56		笑い続ける二つの州の間で	1990	断熱材、布、木、アクリル絵具	242×170×11.5
57		笑い続ける二つの州の間で	1990	断熱材、布、木、アクリル絵具	152×80×6
58		笑い続ける二つの州の間で	1990	断熱材、布、木、アクリル絵具	158×104×6
59	佐々木耕成	無題	2011	油性塗料／布、合板	186.5×187
60		無題	2011	油性塗料／布、合板	186.5×187
61		無題	2011	油性塗料／布、合板	186×234
62		無題	2011	油性塗料／布、合板	186×234
63		無題	2012	油性塗料、水性塗料／布、合板	186×234
64		無題	2012	油性塗料／布、合板	186×234
65		無題	2012	油性塗料／布、合板	186×234
66		無題	2012	油性塗料／布、合板	230.5×368
67	小林達也	歌いながら	2008	寒冷紗、パテ、カゼインテンペラ、コラージュ、クレヨン／パネル	273×182
68		この風景から逃げていこう	2010	寒冷紗、パテ、カゼインテンペラ、コラージュ、アクリル、水彩、クレヨン／パネル	273×182
69		ダイビング	2010	寒冷紗、パテ、カゼインテンペラ、水彩、クレヨン／パネル	273×182
70		事故中毒	2012	寒冷紗、パテ、カゼインテンペラ、パステル、クレヨン／パネル	168×122
71		不確かさを確かめる	2012	寒冷紗、パテ、カゼインテンペラ、コラージュ、アクリル、クレヨン、色鉛筆／パネル	250×364
72	光山 明	ニッポン顔出し看板紀行―栃木県下都賀郡 渡良瀬遊水地―	2009	ラムダプリント	100×127
73		ニッポン顔出し看板紀行―東京都豊島区 サンシャインシティ―	2010	ラムダプリント	100×127
74		ニッポン顔出し看板紀行―栃木県日光市 足尾 足尾銅山―	2011	ラムダプリント	100×127
75		ニッポン顔出し看板紀行―茨城県小美玉市 茨城空港―	2011	ラムダプリント	100×127
76		ニッポン顔出し看板紀行―茨城県東海村 原子力発電所―	2012	ラムダプリント	100×127
77		ニッポン顔出し看板紀行―群馬県館林市 多々良沼―	2012	ラムダプリント	100×127
78		ニッポン顔出し看板紀行―栃木県下都賀郡 旧渡良瀬川―	2012	ラムダプリント	90×200
79	藤井龍徳	イ・ヤ・ナ・ン・デ・ス	1999-2012	写真、木、ガラス、水	

No.	作家名	作品名	制作年	技法/材質	寸法(高さ×幅×奥行cm)
80	藤井龍徳	黒い丘(葦の原)	2004	ゼラチンシルバープrint	各106×130
81		怪水	1999	海・川・溜池の水、地下水	各120×8.5×7
82		怪水	2010	海・川の水	各120×8.5×7
83		怪水	2012	渡良瀬川の水	各120×8.5×7
84		怪雨 (12点)	2012	雨水	各120×8.5×7
85	森 竹巳	Relief Construction '01C-1	2001	ゼムクリップ、ドローイング /パネル	182×182
86		Relief Construction '01P-1	2001	紙ひも、ドローイング/ パネル	182×182
87		Allusion '05-M1	2005	アクリル/カンヴァス	182×182
88		Relief Construction '09M-1	2009	綿棒、ドローイング/ パネル	直径182
89		Construction '11CT-1	2011	ビニルテープ/パネル	182×227
90		Allusion '12-M1	2012	アクリル/カンヴァス	182×182
91		Construction '12MT-1	2012	マスキングテープ/ パネル	182×182
92		Construction '12S-1	2012	ステーブル/パネル	182×182
93	利根川友理	ドッジボールVer.1.1「坂道発進、此処へも 何処へも」	2006-12	糸巻き、糸、本、L字棚 受、S字フック、十字ビス、 U字ボルト、コの字レール、 虫ピン、クギ、アクリル、 リング、金属板、結界、 ソファ、展示台ほか	
94	タカユキオバナ	アート体験のための装置『絆』	2009-12	陶器、水、糸、鈴、剣、鏡	
95	五月女哲平	Two doors, Two windows	2010	アクリル/カンヴァス	130×162
96		TV	2011	アクリル/カンヴァス	130×162
97		Girls	2011	アクリル/カンヴァス	162×227
98		He, She, You and I	2011	アクリル/カンヴァス	227.3×363.6
99		Untitled	2012	アクリル/カンヴァス	130×162
100		Untitled	2012	アクリル/カンヴァス	116.7×116.7
101		Untitled	2012	アクリル/木	122.5×817.5
102		Untitled	2012	カッティングシート	124×190
103	佐藤万絵子	てのひらをひらいて(この夜をのしあげていく 光に名前はずけず)	2012	オイルスティック、オイル パステル、水彩、油彩、ア クリル、コンテ/紙、合成 紙、段ボール箱、銀紙、木	
104	栃木美保	るいか	2012	和紙、テグス、水晶、精 油、蜜蝋、ホホバ油、 シャーレ、アクリル板、樹 脂粘土	

◎印刷物・会場作成物

・図録 A4変形(26.0×21.0cm) 128頁

内容:

ごあいさつ

謝辞

目次

中央関東文化論(川島健二)

館林ジャンクションー中央関東の現代美術ー(田中龍也)

図版

関連イベント

関連地図

資料ースペース・ユ一活動記録(1991-2008)(田中龍也編)

作家略歴・参考文献

出品リスト

編集:田中龍也

デザイン:大畑亜樹夫(株式会社原人社)

制作:株式会社原人社

印刷:岡村印刷工業株式会社

発行:群馬県立館林美術館

・ポスター B2

・チラシ A4

・鑑賞ガイド A3四つ折り

・パネル

あいさつ1枚

・会場配布用作品リスト

◎主要関連記事(長文記事は末尾に*)

[新聞等]

・朝日新聞

5.8、5.16、6.6、6.27「館林ジャンクションー中央関東の現代美術」(群馬マリオン)

・朝日ぐんま

6.8

「館林ジャンクション 県立館林美術館」(プレゼント)

6.22

「館林ジャンクションー中央関東の現代美術 多彩な個性が響き合う空間」(美術探訪)*

・おおたタイムス

4.21

「館林近郊で活躍するアーティスト16人の展覧会」*

・京都新聞

8.15

「機能不全の中心を再構成ー福住廉」(見聞録)*

・下野新聞

8.19

「機能不全の中心を再構成「館林ジャンクション」展」(福住廉・美術評論家)〈見聞録〉*

・上毛新聞

4.28、6.22

「館林美術館企画展示「館林ジャンクションー中央関東の現代美術ー」〈ぐんまちゃんの掲示板〉

5.18、6.8、6.22

「県立館林美術館 館林ジャンクションー中央関東の現代美術」

〈気になる情報 ばれっと〉

5.26

「館林ジャンクション展 4県16作家個性伝わる 現代美術立体や絵画

120点」*

6.3

「館林美術館企画展示「館林ジャンクションー中央関東の現代美術ー」

関連ワークショップ「絆」〈ぐんまちゃんの掲示板〉

・上毛新聞シャトル(館林ニュース)

4.10

「企画展「館林ジャンクションー中央関東の現代美術」〈情報〉

5.15

「学芸員による作品解説会」〈情報〉

5.29

「アーティストトーク 光山明、利根川友理、藤井龍徳」〈講座・講演〉

6.4

「県立館林美術館 近隣の16作家が120点」〈culture 美術館〉

6.12

「子どもギャラリートーク」〈情報〉

「アーティストトーク「小林達也・佐藤万絵子・五月女哲平」〈講座・講演〉

・たてばやし朝日ニュース

4.26

「館林で20年ぶりに作品発表」*

・東京新聞

4.26、6.21

「群馬県立館林美術館 館林ジャンクションー中央関東の現代美術ー作家16人を紹介」〈ゆめぼつけ〉

6.7

「「中央関東の現代美術」地元から世界の原理探る」〈文化〉*

・讀賣新聞

3.30

「館林ジャンクションー中央関東の現代美術ー」〈Fridayぐんま〉

・群馬よみうり ビバ!アミーゴ(太田・館林版)

5.4

「企画展「館林ジャンクションー中央関東の現代美術ー」

6.15

「県立館林美術館「企画展 館林ジャンクション 中央関東の現代美術」

〈特集〉*

・両毛新聞	作家16人」〈街発見・再発見〉
4.20	・新美術新聞
「館林ジャンクションー中央関東の現代美術ー群馬県立館林美術館」＊	3.21
	「館林ジャンクションー中央関東の現代美術ー」〈2012年度上半期 展覧会カレンダー〉
[定期刊行物]	・地域創造レター
・足利漫我人	6月号
5・6月号	「館林ジャンクション 中央関東の現代美術」〈地域通信〉
「県立館林美術館情報「館林ジャンクション～中央関東の現代美術」	・中央公論
」	7月号
・アートフィールドウォーキングガイド ギャラリー	「館林ジャンクションー中央関東の現代美術ー身近に住むアーティストの作品を味わう」〈Art〉＊
Vol.5、6	・帝國芸術新聞
「群馬県立館林美術館 館林ジャンクションー中央関東の現代美術ー」	6.15(第381号)
〈Schedule Museum〉	「群馬県立館林美術館「館林ジャンクション 中央関東の現代美術」〈全国のギャラリー〉
vol.7	・博物館研究
「館林ジャンクションー中央関東の現代美術ー」	Vol.47 No.4、7
Vol.5	「群馬県立館林美術館「館林ジャンクションー中央関東の現代美術」
「館林ジャンクションー中央関東の現代美術ー」〈Exhibition Spot〉＊	〈event calender〉
・ANタイムズ	Vol.47 No.5
4.10	「群馬県立館林美術館 りょうもうアート・ナウ」〈event calender〉
「ー現代美術作家16人の企画展ー群馬県立館林美術館」	・月刊パブリッシュ
・大川美術館ニュース	6月号(vol.175)
7.20	「館林ジャンクションー中央関東の現代美術ー」〈マイタウン情報〉
「群馬県立館林美術館「館林ジャンクション 中央関東の現代美術」展	・美術手帖
開会式 寺田館長出席」〈大川美術館の活動記録〉	6、7月号
・おとな日和	「群馬県立館林美術館 館林ジャンクション 中央関東の現代美術」
3月号	〈ART NAVI〉
「館林ジャンクションー中央関東の現代美術ー」〈culture日和〉	・美術の窓
・ぐんま広報	5月号
6.3	「館林ジャンクション 中央関東の現代美術」〈現代美術の最前線〉
「館林美術館企画展示「館林ジャンクションー中央関東の現代美術ー」	5、6、7月号
」	「群馬県立館林 館林ジャンクションー中央関東の現代美術ー」〈展覧会
〈県有施設イベント〉	情報 美術館〉
・ぐんま情報誌 からっ風	・美連協ニュース
5・6月号	5月号
「館林ジャンクションー中央関東の現代美術ー」＊〈Art Museum2012	「群馬県立館林美術館 りょうもうアート・ナウ」〈加盟館展覧会案内〉
美術館情報〉	・群馬よみうりライフ
・ギャラリー	4.25
4、7月号	「館林ジャンクションー中央関東の現代美術ー」〈県内イベントカレンダー〉
「館林ジャンクションー中央関東の現代美術ー」〈Schedule Museum〉	・渡良瀬通信
・芸術新潮	4、5、6月号
5月号	「館林ジャンクションー中央関東の現代美術ー」
「群馬県立館林美術館 館林ジャンクションー中央関東の現代美術ー」	〈渡良瀬インフォメーション〉
〈invitation exhibition〉	5月号
・サノメディア	
4.27	
「アートな一日過ごしませんか?4県交差する関東の中心「中央関東」の現代美術	

5月号

「館林ジャンクション・中央関東の現代美術 群馬県立館林美術館」〈渡
良瀬インフォメーション TOPICS〉

◎放送

[ラジオ]

・FMぐんま

5.10

「館林ジャンクション展について」〈ぐんま情報トッピング〉

・FM太郎

4.24、5.15

「館林ジャンクション展について」〈ぐんまいきいき情報〉

5.15

「館林ジャンクション展について」〈ぐんまいきいき情報〉

6.5

「館林ジャンクション展関連イベントについて」〈ぐんまいきいき情報〉

◎関連事業

・長重之 パフォーマンス「アタッチメント2012」

4.28、6.2

・篠崎孝司 パフォーマンス&コンサート「太古の響き」

5.27

・タカユキオバナ ワークショップ「絆」

5.13、6.9

長重之 「交感=交換プロジェクト」

6.24

・アーティストトーク

5.6 小川精一、栃木美保、吉本義人

5.20 亀山知英、菊地武彦、森竹巳

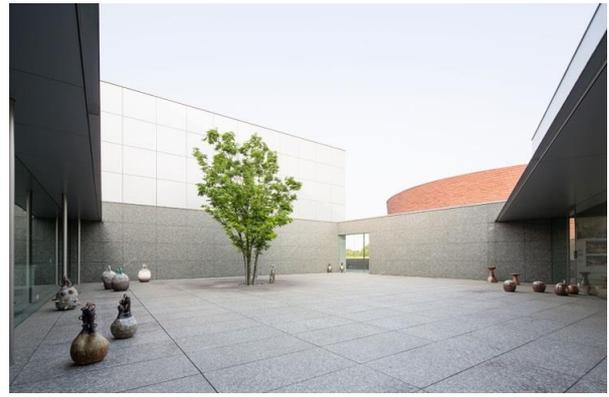
6.3 光山明、利根川友理、藤井龍徳

6.17 小林達也、佐藤万絵子、五月女哲平

7.1 佐々木耕成、長重之



エントランスホール、カスケード



中庭



展示室1



ギャラリー



展示室2



展示室3

2. 雪と氷 『雪華図説』から近現代の美術まで

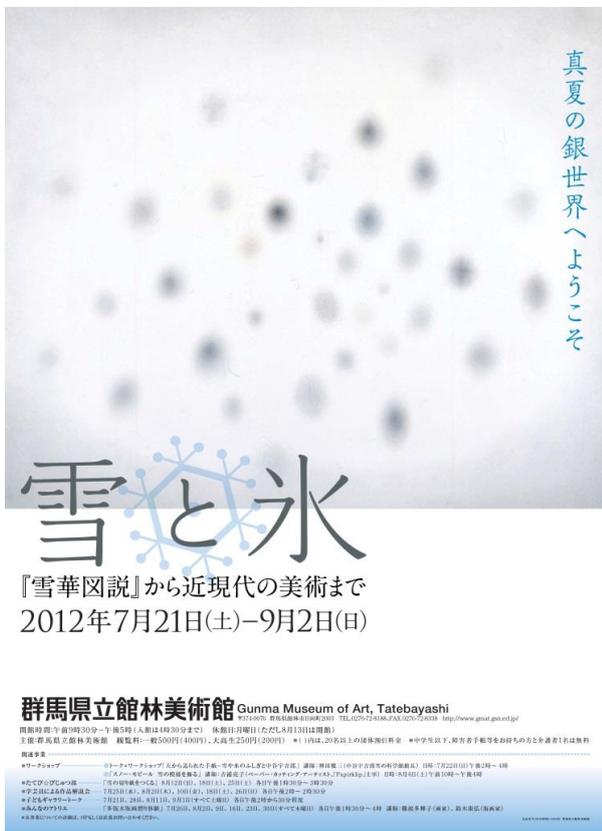
会期 平成24年7月21日(土)～9月2日(日)
 会場 展示室2、3、4
 主催 群馬県立館林美術館
 観覧料 一般500(400)円 大高生250(200)円
 ()内は、20名以上の団体割引料金

群馬県の館林は、関東平野の北部に位置する内陸地であり、夏は全国一の暑さで知られるとおり、この地域は雪や氷を見る機会にあまり恵まれない。しかし日本はアジアから雪や氷を見る観光客が多いことで知られるように、南北に長い土地の特性から、古来、雪や氷に発想源を持つ芸術作品や文様が豊かに生み出されている。

本展では、特徴ある雪と氷の造形の歴史を概観し、暑い館林の夏において新たな視点を紹介した。

館林の東に位置する茨城県古河市では、江戸時代に古河の城主・土井利位(1789～1848)が、雪の結晶を観察しその結晶図を『雪華図説』に著した。本展では古河歴史博物館が所蔵する本書と、これがきっかけになって生まれた江戸時代の雪の文様をデザインした様々な作品を紹介した。また、世界に先駆けて雪の結晶を科学的に研究した中谷宇吉郎(1900～1962)、そして中谷宇吉郎の業績を顕彰すべく創設された「雪のデザイン賞」入賞作品をあわせて紹介した。

美術の世界でも、雪と氷は様々なイメージを提供し、数多くの作品のモチーフとなってきた。富士山を挙げるまでもなく、高い山の頂に積もった雪の美しさには、神々しささえ感じられ、雪深い北国の情景には、営々と繰り返される人々の雪との生活がしのばれる。氷もまた、氷河の雄大さを演出する一方で、氷上のスケートに人々の憩いを提供する。本展では、これら雪と氷をモチーフに作家それぞれのイメージと生活から生み出された近現代の絵画や版画、写真を加え、全72点の資料・作品で構成した。また会場の最後に絵本コーナーを設け、自由に絵本を読んでもらえるスペースとした。



ポスター



図録



ジュニアガイド

出品目録

前期展示:平成24年7月21日(土)ー8月12日(日) 後期展示:平成24年8月13日(月)ー9月2日(日)

第1章 『雪華図説』と雪の文様ー江戸から近代へ

No.	資料名	編集者・差出者	刊行年	体裁	寸法 (縦×横×奥行cm)	所蔵	前 期	後 期
1	雪華図説	土井利位著	1832(天保3)	1冊	17.6×12.0	古河歴史博物館	○	○
2	続雪華図説	土井利位著	1840(天保11)	1冊	17.6×12.2	古河歴史博物館	○	○
3	重刻雪華図説	土井利位著・大槻磐溪重刻		1冊	15.2×10.7	古河歴史博物館	○	○
4	顕微鏡		1737頃		高さ38.0	古河歴史博物館寄託	○	○
5	Katechismus der Natuur	ヨハネス・フロレンティウス・マルティネト著	1778	4冊	21.5×13.3	古河歴史博物館	○	○
6	験雪図引	高橋景保著	1828.8(文政11)	1冊	28.3×20.0	古河歴史博物館	○	○
7	朝倉藤右衛門宛土井利位書	土井利位			17.3×27.4	古河歴史博物館	○	○
8	北越雪譜	鈴木牧之	1835-36 (天保6-7)	7冊	25.2×18.0	古河歴史博物館	○	○
9	大福節用無尽蔵	田浦泰範 編	1863(文久3)	1冊	25.2×17.7	古河歴史博物館	○	○
10	雪華文罽		江戸後期	1枚		古河歴史博物館	○	○
11	雪華模様肩衣袴		江戸後期	1領		古河歴史博物館	○	○
12	雪華模様を散らした袴		近代	1領		古河歴史博物館	○	○
13	江戸の松名木尽 押上妙見の松	溪斎英泉	江戸後期	大判錦絵		古河歴史博物館		○
14	御祭礼	歌川国貞(三代豊国)	1830(天保初)頃	大判錦絵三枚続		古河歴史博物館	○	
15	其姿紫の写絵 廿四	歌川国貞(三代豊国)	1847-52 (弘化4-嘉永5)	大判錦絵		古河歴史博物館		○
16	名誉仁政録	歌川国貞(三代豊国)	1852.7(嘉永5)	大判錦絵三枚続		古河歴史博物館		○
17	艶娘稽古所かよひ	歌川国貞(三代豊国)	1863(文久3)	団扇絵		古河歴史博物館	○	
18	八犬伝犬の双紙の内 墓六妻亀笹	歌川国貞(二代)	江戸後期	大判錦絵		古河歴史博物館	○	
19	入鹿大臣 大谷友右衛門	豊原国周	1869(明治2)	大判錦絵		古河歴史博物館		○
20	新撰東錦絵・鬼神於松四郎三月岡芳年朗を害す図	三月岡芳年	1886(明治19)	大判錦絵二枚続		古河歴史博物館	○	
21	東風俗年中行事 六月	橋本周延	1890(明治23)	大判錦絵		古河歴史博物館	○	
22	春霞初音の鶯	橋本周延	1895(明治28)	大判錦絵三枚続		古河歴史博物館		○

第2章 近現代美術にみる雪と氷ー日本画、洋画、版画など

No.	作品名	作者名	制作年	技法・材質	寸法 (縦×横×奥行cm)	所蔵	前 期	後 期
23	夏冬山水図屏風(左隻)	小室翠雲	1923(大正12)	絹本墨画淡彩・六曲一隻	167×360.0	群馬県立館林美術館	○	○
24	凍解	辻永	1964(昭和39)	油彩・カンヴァス	77.0×101.5	長野県信濃美術館	○	○
25	氷にとざされた亡者達	福沢一郎	1971(昭和46)	アクリル・カンヴァス	181.8×227.3	群馬県立近代美術館	○	○
26	雪の城	南城一夫	1960(昭和35)	油彩・板	40.6×31.5	群馬県立近代美術館	○	○
27	雪(ある記録画五題の内)(日光中宮祠戦場ヶ原)	向井潤吉	1947(昭和22)	油彩・カンヴァス	73.3×99.8	栃木県立美術館	○	○
28	北国遅春	岩橋英遠	1974(昭和49)	紙本着色・額装	72.5×60.3	佐久市立近代美術館	○	○
29	雪	海老原喜之助	1930(昭和5)頃	油彩・カンヴァス	65.0×80.2	宇都宮美術館	○	○
30	雉	白石隆一	1946(昭和21)	油彩・カンヴァス	89.0×64.5	岩手県立美術館	○	○
31	蓼科山 雪	田村一男	1979(昭和54)	油彩・カンヴァス	145.5×89.5	佐久市立近代美術館	○	○
32	溪流(塩原)	刑部人	1971(昭和46)	油彩・カンヴァス	45.5×53.0	栃木県立美術館	○	○
33	会津の冬(坂下)	斎藤清	1938-40(昭和13-15)頃	紙・木版	38.0×45.6	福島県立美術館	○	○
34	会津の冬(御母堂)	斎藤清	1938-40(昭和13-15)頃	紙・木版	38.0×45.0	福島県立美術館	○	○
35	会津の冬(B)	斎藤清	1953(昭和28)	紙・木版	39.3×54.5	福島県立美術館	○	○
36	会津の冬	斎藤清	1958(昭和33)	紙・木版	39.2×53.4	福島県立美術館	○	○
37	会津の冬(6)	斎藤清	1958(昭和33)	紙・木版	38.1×53.0	福島県立美術館	○	○
38	会津の冬(14)	斎藤清	1969(昭和44)	紙・木版	37.8×52.6	福島県立美術館	○	○
39	会津の冬(1)	斎藤清	1970(昭和45)	紙・木版	38.4×52.8	福島県立美術館	○	○
40	会津の冬(18)	斎藤清	1970(昭和45)	紙・木版	38.1×52.6	福島県立美術館	○	○
41	会津の冬(21)	斎藤清	1974(昭和49)	紙・木版	37.5×52.5	福島県立美術館	○	○
42	会津の冬(55)	斎藤清	1982(昭和57)	紙・木版	38.1×52.9	福島県立美術館	○	○
43	会津の冬(71)若松	斎藤清	1987(昭和62)	紙・木版	38.0×52.9	福島県立美術館	○	○
44	会津の冬(93)金山町	斎藤清	1991(平成3)	紙・木版	37.7×52.8	福島県立美術館	○	○
45	サラサラ粉雪ふる	山口薫	1960(昭和35)	油彩・カンヴァス	130.3×162.0	群馬県立近代美術館	○	○

No.	作品名	作者名	制作年	技法・材質	寸法 (縦×横×奥行cm)	所蔵	前 期	後 期
46	霧氷の譜	東山魁夷	1985(昭和60)	紙本着色・額装	130.0×185.0	長野県信濃美術館 東山魁夷館	○	
47	雪の城	東山魁夷	1969(昭和44)	紙本着色・額装	33.0×42.4	長野県信濃美術館 東山魁夷館		○
48	雪どけ	中谷泰	1975(昭和50)	油彩・カンヴァス	52.5×72.0	群馬県立近代美術館	○	○
49	山麓雪景	深谷徹	1979(昭和54)	油彩・カンヴァス	130.6×193.8	群馬県立近代美術館	○	○
50	松尾鉱山	佐々木一郎	不詳	油彩・カンヴァス	130.0×162.0	岩手県立美術館	○	○
51	信濃川・卯の木A	富岡惣一郎	1984(昭和59)	油彩・カンヴァス	162.0×227.3	南魚沼市トミオカホワ イト美術館	○	○
52	アラスカ氷河・ラクーナ	富岡惣一郎	1987(昭和62)	油彩・カンヴァス	162.0×130.3	南魚沼市トミオカホワ イト美術館	○	○
53	みちのくの冬	福井良之助	1946(昭和21)	油彩・カンヴァス	130.0×162.0	岩手県立美術館	○	○
54	雪の藤原	志村ふくみ	1982(昭和57)	紬織着物・絹	167.2×67.5	群馬県立近代美術館	○	○
55	故山春雪	高橋常雄	1987(昭和62)	紙本着色・額装	97.0×162.0	群馬県立近代美術館	○	○
56	浅間	米谷清和	1986(昭和61)	紙本着色・四曲 一隻	185.0×360.0	佐久市立近代美術館	○	○
57	ベントレーへのオマージュ#1	小畑雄嗣	2005-06 (平成17-18) (プリント:2010)	インクジェットプリ ント(顔料)	イメージサイズ50.9 ×34.0	作家蔵	○	○
58	ベントレーへのオマージュ#2	小畑雄嗣	2005-06 (平成17-18) (プリント:2010)	インクジェットプリ ント(顔料)	イメージサイズ50.9 ×34.0	作家蔵	○	○
59	ベントレーへのオマージュ#4	小畑雄嗣	2005-06 (平成17-18) (プリント:2010)	インクジェットプリ ント(顔料)	イメージサイズ50.9 ×34.0	作家蔵	○	○
60	ベントレーへのオマージュ#7	小畑雄嗣	2005-06 (平成17-18) (プリント:2010)	インクジェットプリ ント(顔料)	イメージサイズ50.9 ×34.0	作家蔵	○	○
61	ベントレーへのオマージュ# 11	小畑雄嗣	2005-06 (平成17-18) (プリント:2010)	インクジェットプリ ント(顔料)	イメージサイズ50.9 ×34.0	作家蔵	○	○
62	ベントレーへのオマージュ# 12	小畑雄嗣	2005-06 (平成17-18) (プリント:2010)	インクジェットプリ ント(顔料)	イメージサイズ50.9 ×34.0	作家蔵	○	○
63	冬の呼吸	金田実生	2004(平成16)	水溶性クレヨン、 鉛筆・紙	イメージサイズ50.9 ×34.0	群馬県立館林美術館	○	○

第3章 科学と芸術のはざままで—中谷宇吉郎と雪のデザイン賞受賞作品

64	マイクロコスモス・冬の日	平井覚	2000(平成12)	中性紙、アクリル 樹脂、木	17.0×42.0×42.0	中谷宇吉郎雪の科学館	○	○
65	早春	森政子	1995-96 (平成7-8)	インド藍、草木 染・木綿	66.0×141.0	中谷宇吉郎雪の科学館	○	○
66	雪氷の花	青木幸生	2003(平成15)	ガラス(2点組)	25.0×26.0×19.0	中谷宇吉郎雪の科学館	○	○
67	しもばしら	田中雅樹	2007(平成19)	ガラス	5.0×17.0×17.0	中谷宇吉郎雪の科学館	○	○
68	白磁抜釉彩鉢「雪層」	江口功	2008(平成20)	陶芸	16.0×45.0×45.0	中谷宇吉郎雪の科学館	○	○
69	air snow	ヒロネ アヤコ	2009(平成21)	水フェルト・メリノ ウール、スーパー オーガンザー、 毛糸	300.0×150.0×8.0	中谷宇吉郎雪の科学館	○	○
70	六花	山崎純子	2009(平成21)	ガラス	7.0×39.0×43.0	中谷宇吉郎雪の科学館	○	○
71	截金硝子「雪明り」	山本茜	2011(平成23)	ガラス、截金	18.9×10.1×9.7	中谷宇吉郎雪の科学館	○	○
72	white field	牧野広大	2011(平成23)	アルミニウム、鍛 金	10.0×50.0×50.0	中谷宇吉郎雪の科学館	○	○

◎印刷物・会場作成物	7.23
	「雪と氷～『雪華図説』から近現代の美術まで」
・図録 A5変形(21.0×17.5cm)64頁	7.25
内容:	「雪と氷展」
ごあいさつ	・上毛新聞
謝辞	7.13
目次	「県立館林美術館 雪と氷」〈気になる情報 ぱれっと〉
雪と氷ーその美しさをめぐって(染谷滋)	7.13
図版	「アート体験手助け」〈お知らせ〉
第1章 『雪華図説』と雪の文様ー江戸から近代へ	7.21、8.3
第2章 近現代美術にみる雪と氷ー日本画、洋画、版画など	「館林美術館企画展示「雪と氷」〈ぐんまちゃんの掲示版〉
第3章 科学と芸術のはざままでー中谷宇吉郎と雪のデザイン賞受賞作品	7.27
作家略歴	「館林美術館「雪と氷『雪華図説』から近現代の美術まで」〈プレゼント〉
参考文献	8.8
絵本のリスト	「目から涼しく 館林「雪と氷」の美術展」*
出品作品リスト	8.10
発行:群馬県立館林美術館	「時忘れアート浸る カフェ、ショップ充実」〈生活けいざい〉*
制作:美術出版社	8.11
デザイン:森重智子(美術出版社)	「ヒンヤリできる展覧会 雪と氷モチーフの66点」*
・ポスター B2	・上毛新聞シャトル(館林ニュース)
・チラシ A4	7.10、7.17、8.28
・ジュニアガイド 観音折り、仕上がりサイズ15×15cm	「企画展示「雪と氷」〈イベント情報〉
・パネル	7.10、7.17、7.24、8.7、8.28
あいさつ1枚、章解説5枚	「子どもギャラリートーク」〈イベント情報〉
・会場配布用作品リスト	7.30
	「県立館林美術館 絵や版画で涼しさを」〈culture 美術館〉
	8.10
◎主要関連記事(長文記事は末尾に*)	「氷の不思議 親子で実験」*
	8.21
[新聞等]	「学芸員による作品解説会」
・朝日新聞	・東京新聞
8.8、8.15	7.19
「雪と氷「雪華図説」から近現代の美術まで」〈群馬マリオン〉	「雪と氷 江戸時代の『雪華図説』から近現代の美術まで」〈ゆめぼっけ〉
8.21	・毎日新聞
「暑さ緩和も利用も 猛暑日19日目館林を歩く」*	8.15
・朝日ぐんま	「雪と氷ー『雪華図説』から近現代の美術まで」
8.17	・両毛新聞
「雪と氷」〈プレゼント〉	8.4
8.24	「企画展「雪と氷」群馬県立館林美術館」*
「雪と氷」〈イベント〉	・読賣新聞
・おたタイムス	6.29
7.14	「館林猛暑へ備え 熱中症「指数」スマホで確認」*
「「雪と氷」の世界 県立館林美術館で」	7.27
・産経新聞	「雪と氷「雪華図説」から近現代の美術まで」〈おでかけ情報〉
7.20	7.29
「あすから猛暑の館林で「雪と氷」展」*	「「暑さ日本一」館林 雪と氷の展覧会」

[定期刊行物]	「企画展示「雪と氷」招待券 美術館がお届けする「真夏の涼」(プレゼント)
・足利漫我人	・美術手帖
7・8月号	8月号
「県立館林美術館情報 企画展示「雪と氷」(マガジン・ネットワーク)	「GUNMA 群馬県立館林美術館 雪と氷」(今月の美術館・ギャラリーガイド)
・おとな日和	・美術の窓
6月号	8、9月号
「雪と氷 群馬県立館林美術館(館林市)」(Culture日和)	「群馬県立館林 企画展示「雪と氷」(展覧会情報 美術館)
・ギャラリー	・美連協ニュース
6、7、8、9月号	8月号
「雪と氷」(Schedule Museum)	「群馬県立館林美術館 雪と氷」(加盟館展覧会案内)
・ぐんま情報誌 からっ風	・渡良瀬通信
7・8月号	7、8月号
「群馬県立館林美術館 雪と氷」(Art Museum2012 美術館情報)	「群馬県立館林美術館 雪と氷」(渡良瀬インフォメーション)
・芸術新潮	8月号
8月号	「暑い館林で一服の涼を「雪と氷」展」(渡良瀬インフォメーション TOPICS)
「群馬県立館林美術館 雪と氷」(invitation exhibition)	・ANタイムズ
・広報たてばやし	7.10
7.15	「企画展「雪と氷」で涼風提供!! 群馬県立館林美術館」*
「県立館林美術館 日本一暑いまち館林で涼しい気分になれるよう、雪と氷をモチーフにした作品展を鑑賞します」(情報アラカルト)	◎放送
8.1(第1078号)	[ラジオ]
「館林美術館企画展示「雪と氷」(情報アラカルト)	・エフエム太郎
・月刊 書道界	7.11、8.16
8月号	ぐんまいきいき情報
「雪と氷-『雪華図説』から近現代の美術まで-」(ランダム・ハウス)	◎関連事業
8月号	・ワークショップ
「群馬県立館林美術館 雪と氷」(インフォメーション)	7.22
・新美術新聞	「天から送られた手紙-雪や氷のふしぎと中谷宇吉郎」
3.21	講師: 神田健三(中谷宇吉郎雪の科学館館長)
「雪と氷(仮) 群馬県立館林美術館」(2012年度上半期展覧会カレンダー)	8.4
・TOWNわたらせ	「スノー・モバイル 雪の模様を飾る」
6.16	講師: 吉浦亮子(ペーパー・カッティング・アーティスト、「Papirclip」主宰)
「ミュージアムショップグッズ 群馬県立館林美術館(館林市)」(美術館ならではのオリジナルグッズがいっぱい ミュージアムショップおすすめのグッズ 美術館編 I) *	・たてび☆びじゅつ部
・帝國芸術新聞	8.12、8.18、8.25
7.15	「雪の切り紙をつくる」
「群馬県立館林美術館 展示「雪と氷」『雪華図説』から近現代の美術まで」(全国のギャラリー紹介)	
・博物館研究	
7、8、9月号	
「群馬県立館林美術館 雪と氷-雪と氷の表現を絵画や立体など様々な角度から紹介」(展覧会(美術))	
・月刊 パリッシュ	
8月号	



展示室2



展示室3



展示室4

3. 色めく彫刻—よみがえる美意識

会期 平成24年9月22日(土)～12月2日(日)
 会場 展示室1、2、3、4
 主催 群馬県立館林美術館
 助成 芸術文化振興基金
 観覧料 一般800(640)円 大高生400(320)円
 ()内は、20名以上の団体割引料金

近現代彫刻の色に注目し、彫刻の特性と表現の多様性を紹介した展覧会。

石、金属、木・・・素材そのものの美しさに加え、彫刻作品は彩色にも大きな魅力と可能性が秘められている。ところが、ミケランジェロの時代から近代に至るまで、西洋では彫刻に色づけすることはあまり好まれなかった。ロダンにとって、彫刻への彩色は、正確な肉付けを邪魔するシミのようなものでしかなかったという。西洋でも日本でも、神殿や社寺、神仏像に彩色を施すことは古くから行われていたのだが、忘れかけられていたその事実は、近代になって考古学的発見として再び広く知られるようになった。

近代日本において、彩色彫刻の美意識を再び世に問うたのは、長い伝統を背景に新しい可能性を追求した木彫家たちであった。さらに現代の彫刻家たちは、自らの表現世界の実現のために、色を欠かせない要素として取り込んでいく。

本展では近現代の作家21人の多彩な作品が展示されたが、特に収蔵作家のフランソワ・ポンポンについて、鑄造所におけるブロンズ表面の仕上げへのこだわり、黒の役割と形態の単純化への道のりとの関係について考察した。また、当館に比較的近い渡良瀬溪谷付近を拠点に江戸時代に活躍した、彫物師による極彩色の寺社装飾を、写真家による作品によって紹介した。



ポスター



図録



ジュニアガイド

出品目録

※No.41は10月30日(火)より展示

I フランス近代彫刻とその系譜にみる色

I-1 黒と白のモダン

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
1	オーギュスト・ロダン	彫刻家とミューズ	1895-97 (1907 casting)	ブロンズ	64.7×49.5×53.7	群馬県立近代美術館
2	フランソワ・ポンボン	コゼット	1888 (1890以降生前 casting)	ブロンズ	41.0×18.0×13.0	群馬県立館林美術館
3	フランソワ・ポンボン	ラクダ	1906-30 (1906以降生前 casting)	ブロンズ	15.6×23.0×6.0	群馬県立館林美術館
4	フランソワ・ポンボン	ほろほろ鳥	1910-12 (1918-33 casting)	ブロンズ	19.8×23.4×10.7	群馬県立館林美術館
5	フランソワ・ポンボン	牝豚	1918 (1918-31 casting)	ブロンズ	11.0×20.0×5.5	群馬県立館林美術館
6	フランソワ・ポンボン	ヒグマ	1918-26 (1922 casting)	ブロンズ	9.2×15.8×7.0	群馬県立館林美術館
7	フランソワ・ポンボン	雉鳩	1919 (1923または1924 casting)	ブロンズ	24.0×8.7×9.5	群馬県立館林美術館
8	フランソワ・ポンボン	フクロウ	1923 (1927以降生前 casting)	ブロンズ	17.7×7.9×8.2	群馬県立館林美術館
9	フランソワ・ポンボン	バン	1923頃 (1923以降生前 casting)	ブロンズ	26.0×29.0×12.0	群馬県立館林美術館
10	フランソワ・ポンボン	シロクマ	1923-33 (1926-28 casting)	ブロンズ	12.0×23.5×5.0	群馬県立館林美術館
11	フランソワ・ポンボン	立って頭を下げている インドの牝鹿	1927-28 (1928-33 casting)	ブロンズ	12.5×20.8×8.0	群馬県立館林美術館
12	フランソワ・ポンボン	大黒豹	1930-31 (1931 casting)	ブロンズ	25.0×81.0×14.0	群馬県立館林美術館
13	フランソワ・ポンボン	シロクマ	1923-33 (1923-33 製造)	大理石	24.7×45.5×11.7	群馬県立館林美術館
14	北村四海	イヴ	1915(大正4)	大理石	64.0×45.0×52.5	平園賢一氏
15	北村四海	空想に耽り居る女	1916(大正5)	大理石	61.5×30.0×31.0	新潟県立近代美術館・ 万代島美術館
16	北村四海	妙音	1918(大正7)	大理石	50.0×37.0×27.0	平園賢一氏
17	高田博厚	カテドラル	1937(昭和12)	ブロンズ	54.0×32.0×30.0	安曇野市豊科近代美 術館
18	高田博厚	女のトルソ	1968(昭和43)	ブロンズ	42.0×26.0×16.5	安曇野市豊科近代美 術館
19	高田博厚	女のトルソ	1973(昭和48)	ブロンズ	30.0×22.5×20.0	安曇野市豊科近代美 術館

I-2 素材を装う色

20	フランソワ・ポンボン	サント・カトリーヌ	1886-88 (1894 製造)	石膏	41.3×42.8×36.2	群馬県立館林美術館
21	フランソワ・ポンボン	ヒグマ	1918-26 (1918-26 製造)	石膏彩色	10.2×15.4×5.9	群馬県立館林美術館
22	フランソワ・ポンボン	オラン・ウータン(頭部)	1930 (1930 製造)	石膏彩色	34.3×23.0×20.0	群馬県立館林美術館
23	フランソワ・ポンボン	ボストン・テリヤ「トイー」	1930-32 (1930-32 製造)	石膏彩色	18.8×20.2×10.0	群馬県立館林美術館

II 日本近代彫刻と色

II-1 極彩色の伝統

24	若林純	世良田東照宮拝殿 「松の木に留まる鷹」	2012(平成24) (2009撮影)	銀塩プリント	59.3×84.0	作家蔵
25	若林純	歙喜院聖天堂奥殿 「毘沙門、吉祥天、弁天 双六」	2012(平成24) (2010撮影)	銀塩プリント	84.0×59.3	作家蔵
26	若林純	歙喜院聖天堂奥殿 「雪ころばし」	2012(平成24) (2010撮影)	銀塩プリント	84.0×59.3	作家蔵
27	若林純	妙義神社本殿 「波と唐獅子」	2012(平成24) (2010撮影)	銀塩プリント	84.0×59.3	作家蔵

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
28	若林純	雷電神社本殿 「玉扨弾琴」	2012(平成24) (2010撮影)	銀塩プリント	84.0×59.3	作家蔵
29	若林純	高鳥天満宮拝殿 「海老虹梁の龍」	2012(平成24) (2010撮影)	銀塩プリント	59.3×84.0	作家蔵
30	若林純	長伝寺本堂「鳳凰」	2012(平成24) (2010撮影)	銀塩プリント	59.3×84.0	作家蔵
31	若林純	聖天宮日高社天井「龍」	2012(平成24) (2008撮影)	銀塩プリント	84.0×59.3	作家蔵

II-2 色を愛する心

32	新海竹太郎	浮世風俗美人	1910(明治43)	木彫彩色	62.5×13.0×22.0	東御市梅野記念絵画館
33	中谷翫古	百萬	1930(昭和5)	木彫彩色	123.5×57.4×40.0	富山県立近代美術館
34	平櫛田中	かがみ	1956(昭和31)	木彫金彩	19.0×15.0×13.0	小平市平櫛田中彫刻美術館
35	平櫛田中	彫馬原型	1973(昭和48)	ブロンズ金箔	60.0×66.8×21.2	小平市平櫛田中彫刻美術館
36	平櫛田中	気楽坊	1963(昭和38)	木彫彩色	22.0×22.5×10.0	小平市平櫛田中彫刻美術館
37	平櫛田中	東方朔	1974(昭和49)	木彫彩色	46.0×19.0×29.0	小平市平櫛田中彫刻美術館
38	安藤緑山	染象牙貝尽し置物	大正期前後	象牙彩色	5.8×18.3×12.4	三井記念美術館
39	起立工商会社	花鳥図花瓶	明治時代	青銅・金・銀・四分一・赤銅・素銅象嵌色絵肉彫	高さ33.0 口径22.0	清水三年坂美術館
40	起立工商会社	百合に蝶図花瓶	明治時代	青銅・金・銀・四分一・赤銅・素銅象嵌色絵肉彫	高さ33.0 銅径27.0	清水三年坂美術館
※41	佐藤朝山	西王母	1922(大正11)年以前か	木彫彩色	61.5×30.0×17.5	高島屋史料館
42	清水三重三	唄	1924(大正13)	木彫彩色	32.0×22.0×13.5	平園賢一氏
43	澤田政廣	舞ひ	1927(昭和2)	木彫彩色	48.0×31.0×18.0	平園賢一氏
44	澤田政廣	採華	1940(昭和15)	木彫彩色	90.0×40.0×30.0	佐久市立近代美術館
45	宮本朝濤	木花之佐久夜毘賣	1940(昭和15)頃	木彫彩色	72.0×40.0×19.0	平園賢一氏
46	平野富山	福童子	1949(昭和24)	木彫彩色	17.0×27.0×10.0	静岡市(静岡市美術館管理)
47	平野富山	聖徳太子二歳像	1974(昭和49)	木彫彩色	66.0×28.0×24.0	静岡市(静岡市美術館管理)
48	平野富山	花ごころ	1980(昭和55)	木彫彩色	110.0×46.0×34.0	静岡市(静岡市美術館管理)
49	平野富山	羽衣舞	1983(昭和58)	木彫彩色	90.0×44.0×40.0	静岡市(静岡市美術館管理)

III 現代彫刻と色

III-1 温故知新

50	前原冬樹	にっぼん	2000(平成12)	(ドア) 檜、油彩 (雪駄) 檜、油彩	189.0×136.0×11.0 各5.0×27.0×12.0	おぶせミュージアム・中島千波館
51	前原冬樹	一刻	2004(平成16)	(空き缶) 檜、油彩 (ピラカンサス) 朴、油彩	15.0×9.0×9.0 21.0×5.5×7.0	個人蔵
52	前原冬樹	一刻	2009(平成21)	朴、油彩	17.0×5.5×0.7	個人蔵
53	前原冬樹	一刻	2009(平成21)	朴、桜、油彩	5.0×49.4×25.0	YOKOI FINE ART
54	前原冬樹	一刻	2010(平成22)	(陶器の破片) 檜、油彩 (朴の芽) 朴、油彩	5.8×4.8×1.5 4.7×3.6×1.9	個人蔵
55	前原冬樹	一刻	2012(平成24)	朴、油彩	30.0×7.0×11.0	個人蔵
56	前原冬樹	一刻	2012(平成24)	檜、油彩	66.2×7.7×7.0	個人蔵
57	三輪途道	乳母と私II	2007(平成19)	檜、漆、膠、白土、顔料	90.0×58.0×71.0	個人蔵 (群馬県立館林美術館寄託)
58	三輪途道	父子像II	2007(平成19)	檜、漆、膠、白土、顔料	159.0×99.0×8.0	個人蔵 (群馬県立館林美術館寄託)

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
59	三輪途道	臨月のブラ	2007(平成19)	檜、漆、顔料	23.0×28.0×27.5	個人蔵
60	三輪途道	断乳のブラ	2007(平成19)	檜、漆、顔料	24.0×28.0×27.0	個人蔵
61	三輪途道	お疲れブラ	2007(平成19)	檜、漆、顔料	24.0×24.0×24.5	個人蔵
62	三輪途道	かあちゃん猿	2008(平成20)	檜、漆、顔料	103.0×57.0×57.0	個人蔵
63	下山直紀	serendipity	2011-12 (平成23-24)	樟、漆、透明樹脂、 彩色	445.0×60.0×60.0	作家蔵
64	下山直紀	life	2012(平成24)	樟、漆、彩色	38.0×60.0×290.0	作家蔵
65	下山直紀	dynamic state	2012(平成24)	タブの木、漆、透明 樹脂、彩色	233.3×23.0×19.0	作家蔵
66	保井智貴	calm	2009(平成21)	漆、麻布、螺鈿、岩 絵具、膠、黒曜石、 琥珀、大理石など	2点組 各161.0× 58.0×31.0	作家蔵
67	保井智貴	繰り返して春	2012(平成24)	漆、麻布、ブロンズ、 岩絵具、膠、黒曜 石、大理石など	166.0×60.0×32.0	作家蔵

III-2 彩色彫刻の可能性

68	岡本敦生+野田裕示	Collaboration 1996 O&N-I	1996(平成 8)	白御影石、アクリル	83.0×200.0×54.0	愛知県美術館
69	岡本敦生+野田裕示	Collaboration 1996 O&N-II	1996(平成 8)	白御影石、アクリル	76.0×200.0×52.0	愛知県美術館
70	岡本敦生+野田裕示	Collaboration 1996 O&N-VI	1996(平成 8)	白御影石、アクリル	97.0×177.0×9.0	愛知県美術館
71	袴田京太郎	煙人-Scatter	2009(平成21)	アクリル板、ポリウレ タン、ワイヤー、糸	サイズ可変	作家蔵
72	袴田京太郎	侍女-Scatter	2009(平成21)	アクリル板、木、塗 料、ワイヤー、糸	サイズ可変	作家蔵
73	袴田京太郎	中国の老人-Scatter	2009(平成21)	アクリル板、置物 (木)、ワイヤー、糸	サイズ可変	作家蔵
74	袴田京太郎	裸の2人の女-Scatter	2009(平成21)	アクリル板、ポリウレ タン、ワイヤー、糸	サイズ可変	作家蔵
75	袴田京太郎	大黒-Scatter	2010(平成22)	アクリル板、置物 (鉄铸件)、ワイヤー	サイズ可変	作家蔵
76	袴田京太郎	粘土-Scatter	2010(平成22)	アクリル板、ポリウレ タン、ワイヤー、糸	サイズ可変	作家蔵

◎印刷物・会場作成物

・図録 B5変形(25.5×19.0cm)111頁

内容:

ごあいさつ

黒のモダン—フランク・ボンボンのブロンズ作品と鑄造所(神尾玲子)

図版

I フランス近代彫刻とその系譜にみる色

第1節 黒と白のモダン

第2節 素材を装う色

II 日本近代彫刻と色

第1節 極彩色の伝統

【コラム】極彩色の伝統—江戸時代、寺社の装飾彫刻(神尾玲子)

第2節 色を愛する心

【コラム】平櫛田中:彩色への挑戦(横須賀美術館学芸員 沓沢耕介)

III 現代彫刻と色

第1節 温故知新

第2節 彩色彫刻の可能性

作家略歴+作品解説

主要参考文献

出品作品リスト

編集:神尾玲子

制作:印象社

発行:群馬県立館林美術館

・ポスター B2

・チラシ A4

・ジュニアガイド A3二つ折り

・パネル

あいさつ1枚、章解説3枚、解説2枚(極彩色の伝統、上州彫刻師集団について)、写真1枚(歓喜院聖天道奥殿)

・会場配布用作品リスト

◎主要関連記事(長文記事は末尾に*)

[新聞等]

・朝日新聞

9.26、10.24、11.21

「色めく彫刻 よみがえる美意識」<沿線美術館情報>

11.14

「着彩の歩みと彫刻の今 群馬県立館林美術館」

11.19

「響きあう木彫と色彩」(夕刊)

・朝日ぐんま

11.9

「色めく彫刻～よみがえる美意識～」<美術探訪>

11.16

「色めく彫刻—よみがえる美意識」<プレゼント>

・おおたタイムス

9.1

「色めく彫刻・よみがえる美意識」

・ぐんま経済新聞

10.4

「企画展示「色めく彫刻」」

・上毛新聞

9.7、10.12、11.2、11.16

「色めく彫刻—よみがえる美意識」<県内美術館 博物館>

9.21

「色めく彫刻—よみがえる美意識」<プレゼント>

9.22

「館林美術館企画展示「色めく彫刻」」<ぐんまちゃんの掲示板>

10.12

「館林美術館「色めく彫刻」展連続講演会」<ぐんまちゃんの掲示板>

10.20

「彫刻 色が生む魅力 館林美術館で企画展」

11.16

「館林美術館「色めく彫刻」展アーティストトーク」<ぐんまちゃんの掲示板>

・上毛シャトル

9.18

「企画展「色めく彫刻～よみがえる美意識」<展覧会>

9.24

「県立館林美術館 彫刻の色にスポット」<美術館>

11.13

「火とガラス 思わぬ色彩 七宝焼ブローチ作り 県立館林美術館」

・東京新聞

9.20

「群馬県立館林美術館 色めく彫刻—よみがえる美意識」<ゆめぼっけ 美術・博物館ガイド>

・読売新聞

8.31

「企画展示「色めく彫刻—よみがえる美意識」」

10.18

「彩色彫刻 潜む精神性」<文化 アート>

12.13

「被災地での活動 継続と質」<回顧2012>

・群馬よみうり ビバ! アミーゴ

9.21

「群馬県立館林美術館 企画展 色めく彫刻—よみがえる美意識」

・両毛新聞
10.1
「色めく彫刻ーよみがえる美意識 群馬県立館林美術館」

[定期刊行物]
・足利漫我人
9・10月号、11・12月号
「県立館林美術館」<マガジン・ネットワーク>
・おとな日和
Vol.15
「色めく彫刻ーよみがえる美意識」<Culture日和>
・ギャラリー
7、8、9、11、12月号
「色めく彫刻 よみがえる美意識」<全国の展覧会スケジュール>
・ぐんま広報
10.7
「館林美術館企画展示「色めく彫刻ーよみがえる美意識」<県有施設イベント>
・ぐんま情報誌 からっ風
9・10月号、11・12月号
「群馬県立館林美術館 色めく彫刻ーよみがえる美意識」<Art Museum2012 美術館情報>
・群馬よみうり human
9.14発行
「色めく彫刻ーよみがえる美意識」<広告>
・群馬よみうり ライフ
10月号
「企画展示 色めく彫刻」<群馬県内のイベント情報>
・芸術新潮
10月号
「群馬県立館林美術館 色めく彫刻ーよみがえる美意識」<invitation exhibition>
・月刊アートコレクターズ
10月号
「保井智貴」<まだまだ見せませぬ 編集部おすすめ立体アート作品！>
11月号
「色めく彫刻ーよみがえる美意識」<展覧会ガイド>
・女性セブン
11月1日号
「色めく彫刻ーよみがえる美意識」<もっとアートに！この秋オススメの展覧会11>
・新美術新聞
8.21
「色めく彫刻」
・帝国芸術新聞

10.15、11.15
「群馬県立館林美術館「色めく彫刻 よみがえる美意識」
・博物館研究
10、11、12月号
「群馬県立館林美術館 色めく彫刻ーよみがえる美意識」<展覧会(美術)>
・美術手帖
10月号
「群馬県立館林美術館 色めく彫刻 よみがえる美意識」<ART NAVI>
・美術の窓
10、11、12月号
「群馬県立館林美術館 企画展「色めく彫刻」<展覧会情報 美術館>
・美連協ニュース
8、11月号
「群馬県立館林美術館 色めく彫刻ーよみがえる美意識ー」<加盟館展覧会案内>
・渡良瀬通信
9、10、11、12月号
「群馬県立館林美術館 色めく彫刻」<渡良瀬インフォメーション>
10月号
「群馬県立館林美術館で「色めく彫刻ーよみがえる美意識」展」<TOPICS>
・ANタイムズ
9.20
「色めく彫刻ーよみがえる美意識 群馬県立館林美術館」

◎放送

[ラジオ]

・エフエム太郎
10.11、11.8
<ぐんまいきいき情報>

◎関連事業

・連続講演会

10.14

「世界を驚かせた幕末・明治の工芸」

講師:村田理如(清水三年坂美術館館長)

10.21

「国宝を刻んだ上州の彫刻師たち」

講師:若林純(写真家・出品作家)

・ワークショップ

11.11

「七宝の色を楽しむー火とガラスのマジック」

講師:新井智(画家)

・アーティストトーク

11.18

三輪途道、下山直紀、保井智貴(出品作家)



展示室1



展示室2



展示室2



展示室3



展示室4

4. 石の鼓動 森亮太

会期 平成24年12月22日(土)～平成25年4月7日(日)

会場 展示室3・4

主催 群馬県立館林美術館

観覧料 一般 500(400)円、大高生 250(200)円

()内は20名以上の団体割引料金

森亮太(もり・りょうた)は、1952(昭和27)年館林市に生まれた。56年から岐阜市の祖父母の元で生活する。72年、金沢美術工芸大学美術学科彫刻専攻に入学。在学中の76年、群馬県立近代美術館で開催された全群馬青年美術展(第1回群馬青年美術展)で《対位》(現・群馬県立近代美術館蔵)が優秀賞を受賞。77年、金沢美術工芸大学研究科修了後上京し、ディスプレイ関係の仕事をしながらか制作を続ける。80年第5回群馬青年美術展および煥乎堂創作展に招待出品。86年東京赤坂のアーキヒルズ・アーキ森ビルに作品が設置される。89(平成元年)年、91年にはヘンリー・ムーア大賞秀作展(彫刻の森美術館)に入選。その他、かわさき市美術展優秀賞など各地の美術展やコンクールに入選する。90年米子彫刻シンポジウムに参加。同年より文化学園文化服装学

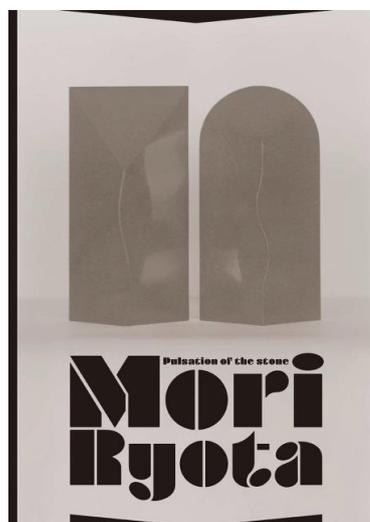
院ディスプレイ科講師をつとめる。93年、勢多郡富士見村大字赤城山(現・前橋市)にアトリエが完成するが、同年、そのアトリエに向かう途中の交通事故により41歳の若さでこの世を去った。

森は主に御影石を用いて、直線と曲線を巧みに組み合わせた幾何学的な抽象彫刻を制作。なるべく機械を使わず手で磨くことで、石とは思えない柔らかさと暖かみを与えられた、その彫刻作品には、たとえ小品であっても高度な技と思考が凝縮された作品となっている。赤城山中に念願の広いアトリエを手に入れ、大作の制作も期待された矢先の突然の死は、各方面から惜しまれた。その作品は、県内では県立近代美術館のほか富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館に収蔵され、館林の「彫刻の小径」にはレプリカが設置されている。

本展は、森亮太の没後20年にあたり、地元館林が生んだ優れた彫刻家の全貌を振り返り、同時にショーウィンドウのディスプレイなど商業美術の分野や遺された資料、オブジェなども展示し、包括的にその仕事を紹介した。



ポスター



図録



ジュニアガイド

出品目録

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
1	無題(高校卒業制作)	1970年	白御影石	200×55×82	
2	習作(女性像頭部)	1972年頃	白御影石	28×41×38	個人蔵
3	人	1973年頃	黒御影石	60×50×33	個人蔵
4	こころ	1973年頃	白大理石	50×37×43	個人蔵
5	BEAT	1974年頃	赤御影石	60×50×27	個人蔵
6	絆	1974年頃	白大理石	74×49×22	個人蔵
7	ハーモニー	1974年頃	白大理石	60×57×40	個人蔵
8	対位Ⅰ	1975年	黒御影石	108×30.5×64	群馬県立近代美術館
9	対位Ⅱ	1975年	白大理石	53×15×35	群馬県立近代美術館
10	Gのかたち	1976年頃	赤御影石	59×49×15	個人蔵
11	STEP	1976年	黒御影石	90×90×15	個人蔵
12	小さなG	1977年	白大理石	18×5.5×13	個人蔵
13	やわらかな夜	1977年	黒御影石	23×38×17	個人蔵
14	夜の集まり	1977年	黒御影石	24×61×24.5	個人蔵
15	ひと(研究科卒業制作)	1977年	黒御影石	100×35×17	個人蔵
16	無題	1978年頃	白大理石	70×35×21	個人蔵
17	女神	1979年頃	縞瑪瑙	4×16.5×2	個人蔵
18	無題	1979年	黒御影石	63×35×23	個人蔵
19	始動	1980年	白御影石	44×17×26	個人蔵
20	石の鼓動	1980年	黒大理石	8×19.5×14	個人蔵
21	沙漠の植物Ⅰ	1981年	黒御影石	44×18.5×7.5	個人蔵
22	軌跡	1981年	赤御影石	34×58×11	個人蔵
23	融合	1981年	黒御影石	88.5×54×28.5	みどり市立大間々東中学校
24	通り過ぎたかたち	1982年	黒大理石	10.5×35×4	個人蔵
25	無題	1982年	黒御影石	30×25×14	個人蔵
26	二つの突起	1982年	黒御影石	27×55×17	個人蔵
27	少女像	1982年	FRP	39×15×9	個人蔵
28	頭部像	1983年	白大理石	27×33×28	個人蔵
29	無題	1983年	大理石	39×13.5×9	個人蔵
30	無題	1983年	黒御影石	64×34×36	個人蔵
31	軌跡	1984年	赤御影石	12.5×37×24	個人蔵
32	子供の顔	1985年	黒大理石	22×18.5×4	個人蔵
33	無題	1985年	黒御影石	17×33.5×16.5	個人蔵
34	きになった夜	1985年	黒大理石	25×40×7	個人蔵
35	イカロスの翼	1986年頃	真鍮	44×23×28	個人蔵
36	二つの関係	1986年	黒御影石	24.5×70.5×21.5	個人蔵
37	無題	1987年	木に塗装	21×26×29	個人蔵
38	無題	1987年	木に塗装	38×32×40	個人蔵
39	風の扉	1987年	黒御影石	101×34.5×31	個人蔵
40	片(かたわれ)	1988年	黒御影石	14×31.1×14.5	個人蔵
41	COUPLE	1988年	黒御影石	28×29.5×6.5	個人蔵
42	COUPLE	1988年	赤・黒御影石	43.5×32×13	個人蔵
43	無題	1988年	黒御影石	14×55.5×17	個人蔵
44	浜風	1988年	黒御影石	55×27.5×5.5	富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館
45	座標	1988年	黒御影石	27.5×27×14	個人蔵
46	Yのかたち	1988年	黒御影石	66×18×10	個人蔵
47	断片	1988年	黒御影石	61×34.5×14	個人蔵
48	東風(こち)Ⅲ	1989年	白御影石	50×12×12□	個人蔵
49	波	1990年	黒御影石	33×8×51	個人蔵
50	南風	1991年	赤御影石	50×50×6	個人蔵
51	西風	1991年	白御影石	50×17×17	群馬県太田市
52	WALK	1991年	白御影石	65×15×22	個人蔵
53	東風(こち)V	1991年	黒御影石	60×9.2×9.2	富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館
54	静物	1973年頃	アクリル・ボード紙	30.6×41	個人蔵
55	習作	1976年頃	水彩、パステル・紙	25×35	個人蔵

【参考作品】

作品名	制作年	技法・材質	所蔵
girl	1982年	FRP	個人蔵
キャンドルスタンド	1981年	真鍮	個人蔵
電気スタンド	1984年	真鍮・木	個人蔵
Child	1985年	木	個人蔵
自作バッグ	1975年	革	個人蔵
自刻像	1977年	木	個人蔵
スケッチ	1970年代	木炭・紙	個人蔵
スケッチ	1970年代	ペン・紙	個人蔵
デッサン	1974年	ペン・紙	個人蔵
デッサン	1970年代	木炭・紙	個人蔵
高校卒業制作作品スケッチ	1970年	鉛筆・紙	個人蔵
作品習作	1989年頃	パステル・紙	個人蔵
猫のオブジェ	1988年	砂岩	個人蔵
無題	1978年頃	白大理石	個人蔵
無題	1978年頃	白大理石	個人蔵

【特別出展(修復作品)】

こすもす	1991年	黒御影石	67×20.5×10	個人蔵
------	-------	------	------------	-----

【参考資料】

ミキモト本店(銀座)のウィンドーディ スプレイのオブジェ制作	1988年			
POLA(新宿)のウィンドーディス レイのオブジェ制作	1991年			
ニッポン放送ポスターのためのオブ ジェ(「もも、かぼちゃ計画」)	1989年			
第7回オンワードファッションコン クールのためのオブジェ	1990年			
福岡天神IMSポスターのためのオブ ジェ	1990年			
福岡天神IMSポスターのためのオブ ジェ	1993年			
ミキモト「プリンセス・ネックレス」 パンフレット(森亮太制作の胸像)	1993年			

◎印刷物・会場作成物

・図録 A3版(42.0×29.7cm)15頁

内容:

謝辞

ごあいさつ

図版

森亮太さんの思い出とその作品(土方明司)

森亮太の碑、あるいはヴィルティオーゾということ(谷内克聡)

作家略歴

出品作品リスト

著者:森亮太

監修:谷内克聡(群馬県立館林美術館)

執筆:土方明司(平塚市美術館)／谷内克聡

翻訳:スタンリー・N・アンダソン

作品撮影:熊谷順／黒岩雅志

エディトリアル・デザイン:栗原幸治(クリ・ラボ)

編集:名塚雅絵／上高家論(美術出版社)

制作:株式会社 美術出版社

発行:群馬県立館林美術館

・ポスター B2

・チラシ A4

・ジュニアガイド A3 四つ折り

・パネル 挨拶1枚、写真1枚、年譜1枚、解説5枚、写真シート(ディスプレイ写真)

・会場配布用作品リスト

◎主要関連記事(長文記事は末尾に*)

[新聞等]

・朝日新聞

1.9、2.6、2.15

「群馬県立館林美術館 石の鼓動 森亮太」〈群馬マリオン 沿線美術館情報〉

1.22

「石の鼓動 森亮太」〈群馬マリオン〉

・朝日ぐんま

2.22

「春の鼓動—森亮太に捧げるコンサート」〈イベント〉

3.8

「館林美術館 石の鼓動」〈プレゼント〉

・おおたタイムス

12.22

「彫刻家・森亮太の回顧展 「石の鼓動」県立館林美術館で」*

・桐生タイムス

2.1

「地元にゆかり早世の彫刻家 森亮太の全貌紹介—没後20年のレクイエム兼ねて作品の半数以上一堂に」*

・上毛新聞

12.14、1.11、2.15、3.8

「県立館林美術館 石の鼓動 森亮太」〈気になる情報 ぱれっと〉

12.22、2.5、3.2

「館林美術館企画展示「石の鼓動 森亮太」〈ぐんまちゃんの掲示板〉

12.22

「県立館林美術館の招待券を10組20人に」〈おたのしみ読者プレゼント〉

12.22

「手磨きで温かみ感じる石彫 森さん回顧展に60点」〈ぶんか短信〉

12.28

「館林美術館 「石の鼓動 森亮太」〈気になる情報 ぱれっと プレゼント〉

1.11

「温かみある石の彫刻 没後20年、森さんに光」*

1.25

「石の鼓動 森亮太」

2.22

「『春の鼓動』森亮太に捧げるコンサート」〈気になる情報 ぱれっと〉

3.6

「県立館林美術館 森さん没後20年で回顧」〈culture 美術館〉

・上毛新聞シャトル(館林ニュース)

12.11、12.18、1.8、1.15、1.22、1.29、2.5、2.26

「企画展「石の鼓動 森亮太」〈イベント情報〉

・東京新聞

12.20

「群馬県立館林美術館 石の鼓動 森亮太」〈美術館・博物館〉

1.20

「石にぬくもり 彫刻に命刻む 森亮太さん没後20年展」*

・読賣新聞

1.24

「石彫刻の息吹 回顧 早世の森亮太さん没後20年」*

2.15

「『春の鼓動』森亮太に捧げるコンサート」〈おでかけ情報〉

・群馬よみうり ビバ!アミーゴ

12.14

「館林出身の彫刻家の回顧展開催 22日から「石の鼓動 森亮太」館林美術館で」*

2.8

「『春の鼓動』森亮太に捧げるコンサート」〈イベントインフォメーション〉

・両毛新聞

[定期刊行物]	シオン)
・足利漫我人	1月号
11・12月号、1・2月号	「館林出身の彫刻家、森亮太の回顧展」(渡良瀬インフォメーションTOPICS)
「県立館林美術館情報」没後20年 森亮太展」	
・ギャラリー	
1、2月号	
「群馬県立館林美術館 石の鼓動 森亮太」(schedule Museum)	◎関連事業
・ぐんま広報	・一般公募コンサート
1.1	2.17、14
「館林美術館企画展示「石の鼓動 森亮太」(県有施設イベント)	・記念コンサート
・ぐんま情報誌 からっ風	3.3
11・12月号	「春の鼓動—森亮太に捧げるコンサート」
「没後20年 森亮太展」(Art Museum2012 美術館情報)	演奏者: 下山静香(ピアノ)、古橋綾子(ヴァイオリン)
1・2月号、3・4月号	
「石の鼓動 森亮太」(Art Museum2013 美術館情報)	
・芸術新潮	
1、2月号	
「館林市 群馬県立館林美術館 石の鼓動 森亮太」(invitation exhibition)	
・広報たてばやし	
2.1	
「ご覧ください 故森亮太さんの彫刻作品 企画展示「石の鼓動 森亮太」(学びの森)	
・新美術新聞	
8.21	
「没後20年 森亮太展 群馬県立館林美術館」(2012年度下半期展覧会カレンダー)	
・Deli-J	
12.23	
「館林市 企画展「石の鼓動 森亮太」(INFORMATION)	
・博物館研究	
12、1、2月号	
「群馬県立館林美術館 石の鼓動 森亮太」(event calender)	
・美術手帖	
1、2月号	
「群馬県立館林美術館 石の鼓動 森亮太」(ART NAVI 月刊美術館・ギャラリーガイド)	
・美術の窓	
1、2、3月号	
「群馬県立館林 没後20年 森亮太展」(展覧会情報 美術館)	
・美連協ニュース	
11、2月号	
「群馬県立館林美術館 石の鼓動 森亮太」(加盟館展覧会案内)	
・渡良瀬通信	
12、1、2、3月号	
「群馬県立館林美術館 石の鼓動 森亮太」(渡良瀬インフォメー	



展示室4



展示室4



展示室3

第1期 4月28日(土)－7月1日(日)

展示室4

[油彩・彫刻]

第2期 7月21日(土)－9月2日(日)

展示室1

[近現代の彫刻I]

展示室4

[油彩 その他I]

第3期 9月22日(土)－12月2日(日)

展示室4

[油彩その他II]

第4期 12月22日(土)－4月7日(日)

展示室1

[近現代の彫刻III]

展示室2

[油彩その他III]

◎印刷物・会場作成物

[油彩・彫刻]

・パネル1枚

・会場配布用作品リスト

[近現代の彫刻I]

・会場配布用作品リスト

[油彩その他I]

・パネル1枚

・会場配布用作品リスト

[油彩その他II]

・パネル1枚

・会場配布用作品リスト

[近現代の彫刻III]

・会場配布用作品リスト

[油彩その他III]

・パネル1枚

・会場配布用リスト

油彩・彫刻

平成24年4月28日(土)～7月1日(日) 展示室 4

展示期間:○4月28日～5月20日、●5月22日～6月10日、◎6月12日～7月1日

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(高さ×幅×奥行)cm	所蔵	
1	フランソワ・ポンポン	羽根をむしられて駆け回る雄鶏	1910 - 1930	インク・紙	15.5 × 14.0	群馬県立館林美術館	○
2	フランソワ・ポンポン	羽根をむしられて駆け回る雄鶏	1910 - 1932	インク・紙	21.5 × 10.0	群馬県立館林美術館	●
3	フランソワ・ポンポン	羽根をむしられて駆け回る雄鶏	1910 - 1912	インク・紙	15.0 × 17.0	群馬県立館林美術館	◎
4	フランソワ・ポンポン	ほろほろ鳥	1910 - 1914	ブロンズ	19.8 × 23.4 × 10.7	群馬県立館林美術館	
5	フランソワ・ポンポン	牝豚	1918	ブロンズ	11.0 × 20.0 × 5.5	群馬県立館林美術館	
6	フランソワ・ポンポン	ヒグマ	1918 - 1926	ブロンズ	9.2 × 15.8 × 7.0	群馬県立館林美術館	
7	フランソワ・ポンポン	バン	1923 頃	ブロンズ	26.0 × 29.0 × 12.0	群馬県立館林美術館	
8	フランソワ・ポンポン	シロクマ	1923 1933	白色大理石	24.7 × 45.5 × 11.7	群馬県立館林美術館	
9	フランソワ・ポンポン	大黒豹	1930 - 1931	ブロンズ	25.0 × 81.0 × 14.0	群馬県立館林美術館	
	パブロ・ピカソ	版画集『真夜中の馬』より	1956	ドライポイント、ビュラン・紙		群馬県立館林美術館	
10		(1)			31.0 × 22.0		○
11		(2)			31.0 × 22.0		○
12		(3)			31.0 × 22.0		○
13		(4)			31.0 × 22.0		●
14		(5)			31.0 × 22.0		●
15		(6)			31.0 × 22.0		●
16		(8)			31.0 × 22.0		◎
17		(9)			31.0 × 22.0		◎
18		(10)			31.0 × 22.0		◎
	ラウル・デュフィ	アポリネール『動物詩集あ るいはオルフェウスのお供 たち』より	1911 刊	木版・紙		群馬県立館林美術館	
19		オルフェウス			25.6 × 20.5		
20		亀			20.3 × 19.3		
21		猫			20.6 × 19.3		
22		オルフェウス			25.5 × 20.6		
23		ラクダ			20.4 × 19.4		
24		ミミズク			20.4 × 19.0		
25		オルフェウス			25.6 × 20.5		
26		白鳩			20.3 × 19.4		
27		ザリガニ			20.2 × 19.4		
28	モイーズ・キスリング	青い花瓶のミモザ	1948	油彩・カンヴァ ス	62.0 × 74.0	群馬県立館林美術館	
	J.-J.・グランヴィル	『生きている花々』より	1847 刊	スチール・エングレーヴィング・紙		群馬県立館林美術館	
29		バラ			25.8 × 18.0		○
30		マーガレット			25.8 × 18.0		○
31		アザミ			25.8 × 18.0		○
32		スイカズラ			25.8 × 18.0		●
33		サンザシ			25.8 × 18.0		●
34		ワスレナグサ			25.8 × 18.0		●
35		ノバラ			25.8 × 18.0		◎
36		アジサイとヨウラクユリ			25.8 × 18.0		◎
37		スイレン			25.8 × 18.0		◎



近現代の彫刻 I

平成24年7月21日(土)～9月2日(日) 展示室1

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(高さ×幅×奥行)cm	所蔵
1	フランソワ・ボンボン	ラクダ	1906 - 1930	ブロンズ	15.6 × 23.0 × 6.0	群馬県立館林美術館
2	フランソワ・ボンボン	風見鶏	1908 - 1932	銅板	47.0 × 54.4 × 6.0	群馬県立館林美術館
3	フランソワ・ボンボン	ほろほろ鳥	1910 - 1912	ブロンズ	19.8 × 23.4 × 10.7	群馬県立館林美術館
4	フランソワ・ボンボン	牝豚	1918	ブロンズ	11.0 × 20.0 × 5.5	群馬県立館林美術館
5	フランソワ・ボンボン	ヒグマ	1918 - 1926	ブロンズ	9.2 × 15.8 × 7.0	群馬県立館林美術館
6	フランソワ・ボンボン	雉鳩	1919	ブロンズ	24.0 × 8.7 × 9.5	群馬県立館林美術館
7	フランソワ・ボンボン	フクロウ	1923	ブロンズ	17.7 × 7.9 × 8.2	群馬県立館林美術館
8	フランソワ・ボンボン	バン	1923頃	ブロンズ	26.0 × 29.0 × 12.0	群馬県立館林美術館
9	フランソワ・ボンボン	シロクマ	1923 - 1933	大理石	24.7 × 45.5 × 11.7	群馬県立館林美術館
10	フランソワ・ボンボン	シロクマ	1923 - 1933	ブロンズ	12.0 × 23.5 × 5.0	群馬県立館林美術館
11	フランソワ・ボンボン	立って頭を下げているインドの牝鹿	1927 - 1928	ブロンズ	12.5 × 20.8 × 8.0	群馬県立館林美術館
12	フランソワ・ボンボン	大黒豹	1930 - 1931	ブロンズ	25.0 × 81.0 × 14.0	群馬県立館林美術館
13	チャーナ・オルロフ	鳥	1924	ブロンズ	100.5 × 32.2 × 30.0	群馬県立館林美術館
14	チャーナ・オルロフ	魚/噴水	1929	ブロンズ	40.7 × 40.5 × 13.3	群馬県立館林美術館
15	ヘンリー・ムーア	母と子	1938	ブロンズ	11.4 × 7.4 × 5.7	群馬県立館林美術館
16	ヘンリー・ムーア	立っている少女	1981	ブロンズ	23.7 × 5.9 × 7.6	群馬県立館林美術館
17	ヘンリー・ムーア	羊	1960	ブロンズ	19.8 × 24.0 × 11.3	群馬県立館林美術館
18	ヘンリー・ムーア	後ろ足で立つ馬	1972	ブロンズ	20.0 × 9.0 × 7.0	群馬県立館林美術館
19	ヘンリー・ムーア	馬の頭部	1982	ブロンズ	13.6 × 12.0 × 6.5	群馬県立館林美術館
20	ジョアン・ミロ	鳥	1970	ブロンズ	60.7 × 40.7 × 40.7	群馬県立館林美術館
21	マックス・エルンスト	外壁のマスク	1948	ブロンズ	23.8 × 38.6 × 19.2	群馬県立館林美術館
22	フェルナンド・ボテロ	馬	1955	ブロンズ	50.4 × 38.0 × 26.6	群馬県立館林美術館
23	フェルナン・レジェ	花々の中の鳥	1953	ブロンズ	43.0 × 35.0 × 5.0	群馬県立館林美術館
24	ジム・ダイン	キング・パロット	1995	ブロンズ	216.0 × 122.0 × 112.0	群馬県立館林美術館

油彩その他 I

平成24年7月21日(土)～9月2日(日) 展示室4

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(高さ×幅×奥行)cm	所蔵
1	山口薫	森	1936(昭和11)	油彩・カンヴァス	72.7 × 60.6	群馬県立館林美術館
2	山口薫	水田を拓く	1956(昭和31)	油彩・カンヴァス	100.0 × 80.5	群馬県立館林美術館
3	鶴岡政男	地表	1971(昭和46)	油彩・カンヴァス	130.6 × 193.7	群馬県立館林美術館
4	香月泰男	尾花	1954(昭和29)	油彩・カンヴァス	72.8 × 50.0	群馬県立館林美術館
5	伊庭靖子	Untitled	1998(平成10)	油彩・カンヴァス	183.0 × 393.0	群馬県立館林美術館
6	山口啓介	花の心臓/被子植物の空気柱	1953～54(昭和28～29)	油彩・カンヴァス	270.0 × 181.0	群馬県立館林美術館
7	西村盛雄	甘露の雨:マナ10	2002(平成14)	木	65.0 × 160.0 × 207.0	群馬県立館林美術館
8	西村盛雄	無題	2004(平成16)	蓮の葉、紙	185.0 × 185.0 (4点組)	群馬県立館林美術館
9	藤牧義夫	太陽と自画像	1929(昭和4)	木版、手彩色・紙	17.8 × 12.6	群馬県立館林美術館
10	藤牧義夫	朝 『新版画』第1号貼込	1932(昭和7)年 6月20日刊	木版(単色)・紙	12.0 × 9.7	群馬県立館林美術館
11	藤牧義夫	年賀状(昭和5年用)	1929(昭和4)	木版・紙	14.2 × 9.3	群馬県立館林美術館
12	藤牧義夫	しねま	1932(昭和7)	木版・紙	15.3 × 11.4	群馬県立館林美術館
13	藤牧義夫	島のぢいさん 『新版画』第9号貼込	1933(昭和8)年 6月13日刊	木版(多色)・紙	14.4 × 9.4	群馬県立館林美術館
14	藤牧義夫	まくら橋 『新版画』第14号貼込	1934(昭和9)年 11月1日刊	木版(多色)・紙	12.2 × 9.2	群馬県立館林美術館
15	藤牧義夫	裏街 『新版画』第17号貼込	1935(昭和10)年 7月1日刊	木版(多色)・紙	15.0 × 12.0	群馬県立館林美術館
16	藤牧義夫	年賀状(昭和9年用)	1933(昭和8)	木版(多色)、手彩色・紙	13.9 × 9.1	群馬県立館林美術館
17	藤牧義夫	城沼の冬	1933(昭和8)	木版(多色)・紙	11.2 × 14.0	群馬県立館林美術館
18	藤牧義夫	井の頭風景	1934(昭和9)	木版(多色)・紙	14.8 × 16.9	寄託作品
19	清宮質文	むかしのはなし	1958(昭和33)	木版・紙	8.3 × 16.3	寄託作品
20	清宮質文	夏の終わり	1967(昭和42)	木版・紙	10.2 × 22.2	寄託作品
22	清宮質文	夕方の静物(暗い夕日5)	1972(昭和47)	木版・紙	23.0 × 21.9	寄託作品
21	清宮質文	星占い～去りゆく凶星～	1975(昭和50)	木版・紙	15.2 × 18.0	寄託作品
23	清宮質文	夢の中へ	1983(昭和58)	木版・紙	15.5 × 6.8	寄託作品
24	柄澤 齊	《樹々の家族》より	2002～03(平成14～15)年版制作 2004(平成16)年刷り	木版・紙	各 × 22.0 19.0	群馬県立館林美術館
25		33. 花火				
26		38. 羽毛				
27		46. 風の音				
28		50. 月日星				
29		53. 蟹気楼				
30		60. メランコリア				
		61. とらつぐみ				



油彩その他 II

平成24年9月22日(土)～12月2日(日) 展示室4

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (縦×横 (×奥行))	所蔵
1	パウル・クレー	子どもたち	1929	水彩・紙	27.5 × 33.5	群馬県立館林美術館
	マックス・エルンスト	『ルイス・キャロル魔法の角 笛』より	1970年刊	リトグラフ・紙		群馬県立館林美術館
2		(2)			16.4 × 22.0	群馬県立館林美術館
3		(5)			27.8 × 8.5	群馬県立館林美術館
4		(7)			15.6 × 20.2	群馬県立館林美術館
5		(26)			20.0 × 21.0	群馬県立館林美術館
6		(32)			19.0 × 20.0	群馬県立館林美術館
7	ピエール・アレシンス キー	手探りで キー	1974	エッチング、 アクアチント・ 和紙	184.8 × 284.5	群馬県立館林美術館
8	カレル・アペル	サーカス・シリーズ:鳥の道 化	1978	彩色・木	83.8 × 89.0 × 18.0	群馬県立館林美術館
9- 16	ジョアン・ミロ	トリスタン・ツアラ『独り語る』 より (9), (11), (25), (27), (38), (42), (59), (60)	1948～1950 (1950年刊)	リトグラフ・紙	38.0 × 28.0	群馬県立館林美術館
17	ベン・ニコルソン	コンポジション 1947	1947	油彩、鉛筆、 コンテ鉛筆・	45.7 × 45.7	群馬県立館林美術館
18	フランソワ・ラフランカ	トナ	1993	エンボス・石、 紙	22.0 × 20.0	群馬県立館林美術館
19		コルソット	1993	エンボス・石、 紙	22.0 × 20.0	群馬県立館林美術館
20		ロヴァーナ・ディ・デントロ	1995	エンボス・石、 紙	45.0 × 59.0	群馬県立館林美術館



近現代の彫刻 III

平成24年12月22日(土)～平成25年4月7日(日) 展示室1

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(高さ×幅×奥行)cm	所蔵
1	フランソワ・ボンボン	ラクダ	1906 - 1930	ブロンズ	15.6 × 23.0 × 6.0	群馬県立館林美術館
2	フランソワ・ボンボン	ほろほろ鳥	1910 - 1912	ブロンズ	19.8 × 23.4 × 10.7	群馬県立館林美術館
3	フランソワ・ボンボン	牝豚	1918	ブロンズ	11.0 × 20.0 × 5.5	群馬県立館林美術館
4	フランソワ・ボンボン	ヒグマ	1918 - 1926	ブロンズ	9.2 × 15.8 × 7.0	群馬県立館林美術館
5	フランソワ・ボンボン	フクロウ	1923	ブロンズ	17.7 × 7.9 × 8.2	群馬県立館林美術館
6	フランソワ・ボンボン	バン	1923頃	ブロンズ	26.0 × 29.0 × 12.0	群馬県立館林美術館
7	フランソワ・ボンボン	シロクマ	1923 - 1933	大理石	24.7 × 45.5 × 11.7	群馬県立館林美術館
8	フランソワ・ボンボン	シロクマ	1923 - 1933	ブロンズ	12.0 × 23.5 × 5.0	群馬県立館林美術館
9	フランソワ・ボンボン	大黒豹	1930 - 1931	ブロンズ	25.0 × 81.0 × 14.0	群馬県立館林美術館
10	イサム・ノグチ	リス	1984 - 1988	ブロンズ板	61.0 × 48.0 × 39.0	群馬県立館林美術館
11	マックス・エルンスト	外壁のマスク	1948	ブロンズ	23.8 × 38.6 × 19.2	群馬県立館林美術館
12	ジム・ダイン	キング・パロット	1995	ブロンズ	216.0 × 122.0 × 112.0	群馬県立館林美術館
13	バリー・フラナガン	仔象	1984	ブロンズ	174.5 × 104.1 × 62.2	群馬県立館林美術館
14	バーバラ・ヘップワース	アポロン	1951頃	スチール・ロッド	79.0 × 110.5 × 158.5	群馬県立館林美術館
15	アーブラハム＝ダー	清らかな人 XI	1982	ブロンズ	166.2 × 57.8 × 28.0	群馬県立館林美術館
16	フランソワ・ラフランカ	ロヴァーナ	1995	石	12.0 × 42.0 × 30.0	群馬県立館林美術館
17	ブルーノ・ロメダ	純粋な大円	2003	ブロンズ	188.0 × 191.2 × 20.0	群馬県立館林美術館
18	土谷武	蝶 I	1993	軟鋼	147.0 × 130.0 × 160.0	群馬県立館林美術館
19	ジョアン・ミロ	鳥	1970	ブロンズ	60.7 × 40.7 × 40.7	群馬県立館林美術館

油彩その他 III

12月22日(土)～平成25年4月7日(日) 展示室2

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(高さ×幅×奥行)cm	所蔵
1	勅使河原蒼風	群れ	1953	鉄	103.0 × 184.0 × 57.0	寄託作品
2	土谷武	無題	1972	軟鋼	105.0 × 75.0 × 160.0	群馬県立館林美術館
3	戸谷成雄	景体のバロック	2002	木(間伐材)、 灰、アクリル	(8点組) 200.0 × 55.0 × 39.0 200.0 × 73.0 × 61.0 200.0 × 48.0 × 39.0 200.0 × 69.0 × 52.0 200.0 × 59.0 × 57.0 200.0 × 64.0 × 32.0 200.0 × 52.0 × 42.0 200.0 × 73.0 × 54.0	群馬県立館林美術館
4		《景体のバロック》のための ドローイング	2002	鉛筆・紙	(16点組) 各25.7×18.0	群馬県立館林美術館
5	伊庭靖子	Untitled	1995	油彩・カンヴァス	162.0 × 123.0	寄託作品
6	伊庭靖子	Untitled	1998	油彩・カンヴァス	183.0 × 393.0	群馬県立館林美術館
7	山口啓介	花の心臓／蕊柱	2003	顔料、樹脂・ カンヴァス	270.0 × 181.0	寄託作品
8	日高理恵子	空との距離 III	2004	岩絵具・麻紙	(3点組) 170.0 × 170.0 150.0 × 150.0 200.0 × 200.0	群馬県立館林美術館 群馬県立館林美術館 群馬県立館林美術館
9	松井冬子	同世代のエジプト人	2007	鉛筆・紙	43.7 × 36.7	寄託作品
10	松井冬子	トメス4世	2007	鉛筆・紙	36.2 × 44.1	寄託作品
11	大竹利絵子	へび	2006	木	31.0 × 21.5	寄託作品
12	町田久美	ひとり	2003	墨・雲肌麻紙	22.0 × 20.0	寄託作品
13	三輪途道	野辺の王様	1998	檜、漆、膠、 白土、顔料	125.0 × 32.0	寄託作品

D 彫刻家のアトリエ(別館) 展示記録

彫刻家のアトリエの展示ケース内にて資料(一部複製)を展示。展示ごとに配布用解説を作成した。

第1期

「フランソワ・ポンポン関連資料より—不思議な石膏断片—」

平成24年4月28日(土)—7月1日(日)

展示資料:石膏(実物)1点、石膏(写真)10点、写真(複製)1点

フランソワ・ポンポン関連資料には、ヴィーナスを思わせる小さなトルソ、頭部や腕の断片などが残されている。ポンポンが作ったものではないようにみえるが、これらに関する情報はほとんどない。師、ロダンの古代コレクションに触発されたものだろうか。謎に包まれた石膏について、実物資料1点、写真10点などによって紹介した。

第2期

「フランソワ・ポンポン関連資料より—《大鹿》をめぐって—」

7月21日(土)—9月2日(日)

展示資料:写真(複製)15点、絵はがき(複製)1点

別館入り口に展示されている《大鹿》は2m50cmを越えるポンポン晩年の代表作のひとつである。このシャープで洗練された造形に至る試行錯誤や動物園で観察したと思われる鹿の写真や絵はがきを紹介したほか、配付資料によって、最初の大きな《大鹿》の来歴や鑄造方法などを説明した。

第3期

「フランソワ・ポンポン関連資料より—ポンポンと鑄造所—」

9月22日(土)—12月2日(日)

展示資料:絵はがき(複製)4点、写真(複製)10点、手帳・手紙その他(複製)7点

ポンポンが生前に関わった鑄造所には、初期の《コゼット》を制作したシオ＝ドゥコヴィル鑄造所、美しいブロンズ表面の色で知られるエブラール鑄造所、そして魅力的な黒い表面で評判のクロード・ヴァルシュアニ鑄造所などがある。ポンポン死後のヴァルシュアニ鑄造所との関係にも言及しながら、ポンポンと鑄造所について解説した。

第4期

「フランソワ・ポンポン関連資料より—最晩年の栄誉と賞賛—」

12月22日(土)—平成25年4月7日(日)

展示資料:名刺ほか複製)108点

ポンポンは、ナポレオンによって創設され、現在もフランス最高勲章として存在するレジオン・ドヌール勲章を2回受章した。1回目は《シロクマ》制作の3年後の1925年にレジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ章、亡くなる4ヶ月前の1933年1月にはレジオン・ドヌール勲章オフィシエ章を受賞した。1932年の暮れに受章者に選ばれたことを知った100人を超える人々から届いたメッセージ入り名刺を紹介した。ポンポン晩年の交友関係を知る貴重な資料といえる。



E 観覧者数一覧表

企画展示(特別展示を含む)

	有料観覧者							無料観覧者					入館者 合計	
	個人			団体			有料 合計	小中 生	学校 団体	身体障 害者等	その他	無料 合計		観覧者 合計
	一般	大高生	小計	一般	大高生	小計								
「生誕100年 南桂子展－ 鳥が呼ぶ、少 女に出会う銅 版画の世界」 4/1-4/8 7日	420	14	434	0	0	0	434	80	0	26	630	736	1,170	1,295
「館林ジャン クション－中 央関東の現 代美術－」 4/28-7/1 57日	2,248	119	2,367	137	198	335	2,702	207	430	147	4,041	4,825	7,527	10,052
「雪と氷『雪 華図説』から 近現代の美 術まで」 7/21-9/2 39日	3,568	232	3,800	58	25	83	3,883	2,222	70	189	5,769	8,250	12,133	13,826
「色めく彫刻 －よみがえる 美意識」 9/22-12/2 62日	1,925	72	1,997	45	0	45	2,042	180	804	135	4,099	5,218	7,260	10,571
「石の鼓動 森亮太」 12/22-3/31 82日(展示 は平成25年4 月7日まで継 続)	2,324	140	2,464	173	0	173	2,637	288	386	178	3,904	4,756	7,393	10,754
企画展示 計 247日	10,485	577	11,062	413	223	636	11,698	2,977	1,690	675	18,443	23,785	35,483	46,575

入館者数は、観覧者数に施設利用者数、教育普及事業参加者数を加えた総数。

平成24年度の総入館者数は、46,575人である。

教育普及

A 講演会

開催日	演題	講師	会場	参加者数
10.14	「世界を驚かせた幕末・明治の工芸」	村田理如(清水三年坂美術館館長)	講堂	15
10.21	「国宝を刻んだ上州の彫刻師たち」	若林純(写真家・出品作家)	講堂	29

B 作品解説会・ギャラリートーク

1. 学芸員による作品解説会

開催日	展示の名称	解説者	会場	参加者数
5.11	館林ジャンクション★	田中龍也・早矢仕智陽	展示室	3
5.16	館林ジャンクション	田中龍也	展示室	6
6.1	館林ジャンクション	田中龍也	展示室	23
6.23	館林ジャンクション	田中龍也	展示室	2
7.25	雪と氷	染谷滋	展示室	11
7.31	雪と氷★	染谷滋・早矢仕智陽	展示室	8
8.2	雪と氷	染谷滋	展示室	8
8.10	雪と氷	染谷滋	展示室	17
8.18	雪と氷	染谷滋	展示室	26
8.26	雪と氷	染谷滋	展示室	37
9.26	色めく彫刻	神尾玲子	展示室	43
10.11	色めく彫刻	神尾玲子	展示室	14
10.16	色めく彫刻★	神尾玲子、早矢仕智陽、澁澤友香莉	展示室	2
10.26	色めく彫刻	神尾玲子	展示室	1
11.10	色めく彫刻	神尾玲子	展示室	8
11.25	色めく彫刻	神尾玲子	展示室	21
1.12	森亮太展	染谷滋	展示室	14
1.18	森亮太展★	染谷滋・早矢仕智陽	展示室	4
1.27	森亮太展	谷内克聡	展示室	32
3.8	森亮太展	谷内克聡	展示室	6
3.20	森亮太展	谷内克聡	展示室	6
3.28	森亮太展	谷内克聡	展示室	9

★印は「教職員のための模擬授業」

2. 子どもギャラリートーク

開催日	解説者	会場	参加者数
5.12	神尾玲子	展示室	2
5.19	澁澤友香莉	展示室	3
6.30	澁澤友香莉	展示室	4
7.28	澁澤友香莉	展示室	1
8.11	伊羅子典代	展示室	1
9.1	伊羅子典代	展示室	2
10.13	早矢仕智陽	展示室	2
11.17	澁澤友香莉	展示室	1
2.9	早矢仕智陽	展示室	1
3.16	澁澤友香莉	展示室	3

※参加者のあった回のみ記した。



講演会「国宝を刻んだ上州の彫刻師たち」



講演会「世界を驚かせた幕末・明治の工芸」



学芸員による作品解説会



子どもギャラリートーク

C ワークショップ

開催日	名称	講師	会場	参加者数
5.13・6.9	タカユキオバナ ワークショップ「絆」	タカユキオバナ氏 (出品作家)	展示室4	15
7.22	天から送られた手紙ー雪や氷のふしぎと中谷宇吉郎	神田健三氏 (中谷宇吉郎雪の科学館館長)	ワークショップ室	32
8.4	スノー・モバイル 雪の模様を飾る	吉浦亮子氏 (ペーパー・カッティング・アーティスト)	ワークショップ室	23
11.11	七宝の色を楽しむー火とガラスのマジック	新井智氏(画家)	ワークショップ室	18

1. タカユキオバナ ワークショップ「絆」

出品作家のタカユキオバナ氏によるワークショップは、作家の制作したアート体験のための装置「絆(インスピレーション)」を使い、根源的なものと人間の内なる世界との絆を意識できるようにした。2回開催し、ワークショップの状態をそのまま展示した。

2. 天から送られた手紙ー雪や氷のふしぎと中谷宇吉郎

加賀市の中谷宇吉郎雪の科学館館長の神田健三氏を講師に迎え、雪や氷の性質や仕組み、造形の美しさについて話を聞くとともに、氷を使った実験を体験した。

3. スノー・モビール 雪の模様を飾る

吉浦亮子氏は、デンマークモビールを作品の基調とし、デザインカッターを駆使して切り紙を糸でつなぐモビールを制作している。今回のワークショップは、吉浦氏のデザインしたモビール数種を参加者とともに製作し、会期末まで展示室前のギャラリーに展示した。

4. 七宝の色を楽しむー火とガラスのマジック

画家、新井智氏を講師に迎え、七宝の制作を通して、釉薬を使った色の配置の工夫や薬成による色の変化を楽しんだ。



タカユキオバナ ワークショップ「絆」



天から送られた手紙ー雪や氷のふしぎと中谷宇吉郎



スノー・モビール 雪の模様を飾る



七宝の色を楽しむー火とガラスのマジック

D 創作体験コーナー みんなのアトリエ

みんなのアトリエは、夏季企画展会期中の事業で、参加者に簡単な創作体験を提供している。平成21年度より、同会期中に「館林邑楽地区小学生木版画展」の開催、所蔵木版画作品の展示などを行っていることから、多版木版画摺り体験を内容としている。今回は講師に、東毛地区で版画の制作活動や学生へ向けた指導を続けている、難波多輝子、鈴木康弘の両作家を招いた。難波氏には3つの版からなる木版を、鈴木氏にはブロック状の版木を組み合わせた木版を提供して頂き、版木の組み合わせによるいろいろな表現を楽しめる体験となった。7月26日から8月30日の間の各木曜日に全6回開催し、計200人が参加した。

開催日	講師	会場	参加者数
7.26	難波多輝子	ワークショップ室	17
8.2	鈴木康弘	ワークショップ室	33
8.9	難波多輝子	ワークショップ室	24
8.16	鈴木康弘	ワークショップ室	47
8.23	難波多輝子	ワークショップ室	34
8.30	鈴木康弘	ワークショップ室	45



E たてび木曜レクチャー

1. たてび木曜レクチャー「美術 寄り道 まわり道」

開催日	名称	講師	会場	参加者数
1.24	官展を巡って① 文展と群馬の作家たちー明治から大正へー	染谷滋	講堂	20
1.31	官展を巡って② 帝展と群馬の作家たちー大正から昭和へー	染谷滋	講堂	23
2.7	官展を巡って③ 新文展と群馬の作家たちー官展の終焉ー	染谷滋	講堂	14
2.14	永遠にモダンなアール・デコの挿絵 鹿島茂コレクション展紹介	松下和美	講堂	13
2.21	せんとくんがやってくる？ 藪内佐斗司の作品紹介	神尾玲子	講堂	18
2.28	「山口晃展」予告編！	中島幸子	講堂	21
3.7	藤牧義夫と両毛地域	谷内克聡	講堂	10
3.14	猪谷六合雄ースキーと美術ー	谷内克聡	講堂	6



たてび木曜レクチャー「美術 寄り道 まわり道」



たてび木曜レクチャー「美術 寄り道 まわり道」

F アーティストトーク、パフォーマンス

1. アーティストトーク

開催日	展示の名称	出演	会場	参加者数
5.6	館林ジャンクション	小川精一、栃木美保、吉本義人	展示室	86
5.20	館林ジャンクション	亀山知英、菊地武彦、森竹巳	展示室	70
6.3	館林ジャンクション	光山明、利根川友理、藤井龍徳	展示室	67
6.17	館林ジャンクション	小林達也、佐藤万絵子、五月女哲平	展示室	60
7.1	館林ジャンクション	佐々木耕成、長重之	展示室	85
11.18	色めく彫刻	三輪途道、下山直紀、保井智貴	展示室	63

2. パフォーマンス

開催日	名称	出演	会場	参加者数
4.28	アタッチメント2012<内から外へ、外から内へ／ぼくのおじさん>	長重之	エントランス、カスケード	86
5.27	パフォーマンス&コンサート 太古の響き	篠崎孝司	エントランス、中庭	70
6.2	アタッチメント2012<水と橋と丘と・・・／明日にかける>	長重之、かみむら泰一 (サクソ演奏)	エントランス、カスケード	67
6.24	交感=交感プロジェクト	長重之	「彫刻の小径」 内、長重之《交換 テーブル-視床 93-》	60



アーティストトーク(11.18)



パフォーマンス&コンサート(5.27)

G たてび☆びじゅつ部

1 たてび☆びじゅつ部「雪の切り紙をつくる」

開催日	名称	会場	参加者数
8.12	雪と氷	エントランス	80
8.18	雪と氷	エントランス	95
8.25	雪と氷	エントランス	111

H コンサート

1 森亮太展「春の鼓動」一般公募コンサート

開催日	名称	会場	参加者数
2.17	館林美術館でスタンウェイを弾いてみよう	エントランス	21
2.24	館林美術館でスタンウェイを弾いてみよう	エントランス	28

2 記念コンサート「春の鼓動－森亮太に捧げるコンサート」

開催日	名称	出演	会場	参加者数
3.3	「春の鼓動－森亮太に捧げるコンサート」	下山静香(ピアノ)、古橋綾子(ヴァイオリン)	エントランス	347



たてび☆びじゅつ部「雪の切り紙をつくる」



記念コンサート「春の鼓動－森亮太に捧げるコンサート」

I 他団体への協力

1. 西邑楽高等学校主催レクチャー

開催日	名称	講師	会場	参加者数
1.29	美術レクチャー「現実について抽象的に考える」	田中功起	講堂	89 (うち一般参加22)

2. 館林市主催「彫刻の小径鑑賞会」

開催日	講師	会場	参加者数
3.9	神尾玲子	彫刻の小径及び展示室	15



美術レクチャー「現実について抽象的に考える」



館林市主催「彫刻の小径鑑賞会」

J 学校連携その他

学校との連携活動として、学校からの要望に可能な限り応え、研究授業の受け入れや、学校の授業における連携などを行った。また、解説を希望する団体については、観覧前に概要説明を行った。

1. 学校との連携事業

(1)連携授業等

開催日	名称	学校名、学年	担当	会場	参加者数
5.8	美術館見学	加須市立加須小学校1年生	早矢仕	美術館	114
5.11	美術館見学	群馬県立館林高等特別支援学校	早矢仕、神尾、澁澤	講堂・展示室	47
5.25	概要解説・見学	栃木県立足利工業高等学校・デザ イン科	早矢仕	講堂・展示室	121
6.12	職場体験	白鷗大学足利中学校	早矢仕	美術館	1
6.13	職場体験	白鷗大学足利中学校	早矢仕	美術館	1
6.14	職場体験	白鷗大学足利中学校	早矢仕	美術館	1
6.19	美術館見学	館林市立多々良中学校3年生	早矢仕、神尾、澁澤	講堂・展示室	69
6.20	学校訪問鑑賞授業	館林市立第八小学校2年生	早矢仕、澁澤	館林市立第八小学校	95
6.26	美術館見学	館林市立多々良中学校3年生	早矢仕、神尾、澁澤	講堂・展示室	109
6.26	美術館見学	館林市立第八小学校2年生	早矢仕、神尾、澁澤	展示室・研修室	68
6.27	美術館見学	館林市立第八小学校2年生	早矢仕、神尾、澁澤	展示室・研修室	35
7.25	美術館見学	群馬県立太田高等養護学校	早矢仕	展示室・研修室	11
7.25	職場見学	館林市立第二中学校1年生	早矢仕、齋藤、澁澤	WS室、展示室	25
8.2	職場見学	館林市立第二中学校1年生	早矢仕、齋藤、澁澤	WS室、展示室	3
8.9	職場見学	館林市立第二中学校1年生	早矢仕、齋藤、澁澤	WS室、展示室	10
8.16	職場見学	館林市立第二中学校1年生	早矢仕、齋藤、澁澤	WS室、展示室	11
8.25	美術館見学	みどり市立大間々東中学校	早矢仕	研修室・展示室	15
8.29	美術館見学	群馬県立西邑楽高等学校芸術科 1年生	中島、早矢仕	研修室・展示室	35
9.26	学校訪問鑑賞授業	館林市立第三小学校3年	早矢仕、澁澤	館林市立第三小学校	34
9.28	学校訪問鑑賞授業	館林市立第三小学校3年	早矢仕、澁澤	館林市立第三小学校	36
9.29	概要解説・見学	行田市立太田中学校	早矢仕	研修室・展示室	24
10.2	職場体験	館林市立多々良中学校	早矢仕	美術館	3
10.3	職場体験	館林市立多々良中学校	早矢仕	美術館	3
10.5	総合学習	館林市立第四中学校	早矢仕	美術館	6
10.10	総合学習	足利市立愛宕台中学校1～3年	神尾、早矢仕	研修室・展示室	11
10.18	学校訪問鑑賞授業	館林市立第二中学校1年生	神尾、早矢仕	館林市立第二中学校	65
10.18	職場体験	板倉町立板倉中学校	早矢仕	美術館	1
10.18	職場体験	邑楽町立邑楽中学校	早矢仕	美術館	2
10.19	職場体験	板倉町立板倉中学校	早矢仕	美術館	1
10.19	職場体験	邑楽町立邑楽中学校	早矢仕	美術館	2
10.24	美術館見学(生活科)	館林市立第八小学校2年生	早矢仕、齋藤、澁澤	美術館	95
10.25	学校訪問鑑賞授業	館林市立第二中学校1年生	神尾、澁澤	館林市立第二中学校	61
10.30	学校訪問鑑賞授業	館林市立第二小学校4年生	早矢仕、澁澤	館林市立第二小学校	69
10.31	美術館見学	前橋市立二之宮小学校5年生	神尾、早矢仕、澁澤	講堂・展示室	45
11.2	美術館見学	桐生市立広沢小学校5年生	早矢仕	美術館	111
11.9	学校訪問鑑賞授業	館林市立第八小学校3年生	早矢仕、羽鳥	館林市立第八小学校	112
11.13	総合学習	館林市立第八小学校5年生	早矢仕	研修室・展示室	23
11.14	美術館見学	館林市立第八小学校3年生	神尾、早矢仕、澁澤	講堂・展示室	111
11.15	学校訪問鑑賞授業	館林市立第三小学校6年生	早矢仕	館林市立第三小学校	66
11.20	美術館見学	みどり市立大間々南小学校5年生	早矢仕、澁澤	講堂・展示室	43
11.21	美術館見学	群馬県立西邑楽高等学校芸術科 2年生	神尾	講堂・展示室	36
11.21	学校訪問鑑賞授業	館林市立第八小学校4年生	早矢仕、澁澤	館林市立第八小学校	115
11.22	学校訪問鑑賞授業	館林市立第八小学校5年生	早矢仕、澁澤	館林市立第八小学校	117
11.27	美術館見学	館林市立第八小学校6年生	神尾、早矢仕、澁澤	講堂・展示室	113
11.28	美術館見学	館林市立第八小学校4年生	神尾、早矢仕、澁澤	講堂・展示室	112
11.30	美術館見学	館林市立第八小学校5年生	神尾、早矢仕	講堂・展示室	114
12.1	生き方教育講演会	館林市立多々良中学校	染谷	館林市立多々良中学校	524
12.11	学校訪問鑑賞授業	館林市立第二小学校1年生	早矢仕、澁澤	館林市立第二小学校	56
1.23	美術館見学	館林市立多々良中学校1年生(1,2 組)	早矢仕、齋藤、澁澤	美術館	72

1.23	職場体験	足利市立愛宕台中学校2年生	早矢仕	美術館	3
1.24	職場体験	足利市立愛宕台中学校2年生	早矢仕	美術館	3
1.25	職場体験	足利市立愛宕台中学校2年生	早矢仕	美術館	3
1.29	美術館見学	群馬県立西邑楽高等学校美術コース	早矢仕、伊羅子、齋藤、澁沢	美術館	67
1.30	学校訪問鑑賞授業	館林市立第二小学校2年生	早矢仕、澁澤	館林市立第二小学校	56
1.30	美術館見学	館林市立多々良中学校1年生(3,4組)	神尾、齋藤、澁澤	美術館	70
2.8	学校訪問鑑賞授業	館林市立第一小学校6年生	早矢仕、澁澤	館林市立第一小学校	93
2.14	学校訪問鑑賞授業	古河市立古河第一小学校5年生(第1次)	早矢仕、澁澤	古河市立古河第一小学校	54
2.15	美術館見学	館林市立第四小学校3年生	早矢仕	美術館	18
2.19	学校訪問鑑賞授業	館林市立第二小学校3年生	早矢仕、澁澤	館林市立第二小学校	77
2.22	学校訪問鑑賞授業	古河市立古河第一小学校5年生(第2次)	早矢仕、澁澤	古河市立古河第一小学校	53
2.26	美術館見学	古河市立古河第一小学校5年生	早矢仕、澁澤、齋藤	講堂・展示室	57
3.8	美術館見学	館林市立多々良中学校3年生	中島	講堂・展示室	127

(2)団体解説のみを実施

開催日	学校名	担当	会場	参加者数
5.1	館林市立西幼稚園年少・年中・年長	早矢仕智陽	講堂・展示室	133
5.2	群馬県立西邑楽高等学校3年生芸術科	早矢仕智陽	講堂・展示室	37
5.12	桐生大学短期大学部アーチデザイン学科	神尾玲子	研修室・展示室	13
6.9	東北芸術工科大学 美術史・文化財保存修復学科	早矢仕智陽	研修室・展示室	36
2.5	太田市教育研究所適応指導教室「太田ふれあい教室」	澁澤友香莉	研修室・展示室	13

(3)主任会、研修会の実施、参加

開催日	名称	学校名、学年	担当	会場	参加者数
4.16	主任会(美術部会)	館林市中学校	早矢仕智陽	館林市立第一中学校	7
5.18	主任会(図工部会)	館林市小学校	早矢仕智陽	美術館	12
6.26	主任会(図工部会)	邑楽郡小学校	早矢仕智陽	邑楽町立長柄小学校	17
8.2	邑楽郡小学校実技講習会	邑楽郡小学校	早矢仕智陽	美術館	42
8.4	館林市中学校美術部会研修会	館林市中学校	早矢仕智陽	美術館	5
8.8	足利市立小俣小教職員研修	足利市立小俣小学校	早矢仕智陽	美術館	23
9.24	主任会(美術部会)	館林市中学校	早矢仕智陽	館林市立第三中学校	7
10.12	主任会	館林市小学校	早矢仕智陽	美術館	13
10.18	授業研究会	館林市中学校	神尾、早矢仕	館林市立第二中学校	7
11.21	主任会(図工部会)	邑楽郡小学校	早矢仕智陽	美術館	18
12.5	高校5年目経験者研修	群馬県総合教育センター	早矢仕智陽	群馬県総合教育センター	3
12.7	小中学校10年目経験者研修	群馬県総合教育センター	早矢仕智陽	群馬県総合教育センター	11
1.17	主任会(図工部会)	館林市小学校	早矢仕智陽	美術館	12
2.21	主任会(図工部会)	邑楽郡小学校	早矢仕智陽	大泉町立東小学校	17

2. 団体観覧者への解説

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	0	6	5	0	4	0	1	4	0	2	2	6	30
人数	0	274	114	0	81	0	16	90	0	104	34	106	819



学校訪問鑑賞授業



美術館見学

K 地域に開かれた美術館づくり

館林美術館の施設と機能を活かして、地区小学生の健全育成、芸術創作活動の振興、美術鑑賞力の向上を図るとともに、地域に開かれた美術館づくりを推進するために、館林が生んだ木版画家である藤牧義夫にちなみ、館林市及び邑楽郡5町の各市町及び各市町教育委員会の協力を得て、「第4回 日本を代表する木版画家「藤牧義夫」記念館林邑楽地区小学生木版画展」を開催した。会場は講堂を使用し、参加小学校全27校を6会期に分けて展示した。31日間の全会期中に、合計3,251人が観覧した。

会期	開催期間	参加校	入室者数
第1期	7.21-7.26	館林市立美園小学校、板倉町立東小学校、板倉町立西小学校、板倉町立南小学校、板倉町立北小学校、明和町立明和東小学校、明和町立明和西小学校	423
第2期	7.28-8.2	千代田町立西小学校、千代田町立東小学校、大泉町立南小学校	376
第3期	8.4-8.9	大泉町立北小学校、大泉町立西小学校、大泉町立東小学校、邑楽町立中野小学校	549
第4期	8.11-8.16	邑楽町立高島小学校、邑楽町立長柄小学校、邑楽町立中野東小学校、館林市立第一小学校	843
第5期	8.18-8.23	館林市立第二小学校、館林市立第三小学校、館林市立第四小学校、館林市立第五小学校、館林市立第六小学校	564
第6期	8.25-8.30	館林市立第七小学校、館林市立第八小学校、館林市立第九小学校、館林市立第十小学校	496

第4回日本を代表する木版画家「藤牧義夫」記念
館林邑楽地区
小学生木版画展

館林出身の創作版画家・藤牧義夫にちなみ、館林邑楽地区の小学生による木版画展を開催します。この展覧会は、地区内全27校の5年生児童全員が参加するものです。鑑賞の場としての美術館に足を運んでもいい、藤牧義夫の作品や木版画についての見方や感じ方を深めてもらいます。コレクション展示の会場では、藤牧義夫の作品も展示します。

2012年7月21日[土]-8月30日[木]各週土曜日から木曜日
○開室時間：午前9時30分～午後5時
○休室日：毎月曜日(8月31日は閉館)、金曜日
○金曜日の休室は本展のみ、企画展示「雪と水」を含む美術館全体は開館
○回覧版の全額展示(9月17日(土)～9/21日)

群馬県立館林美術館 講堂[入場無料]

〒374-0003 群馬県館林市日野町 3003 電話:0276-72-8188 FAX:0276-72-8238 <http://www.gmat.museum.jp/>

第1期 7月21-26日	第2期 7月28-8月2日	第3期 8月4-9日	第4期 8月11-16日	第5期 8月18-23日	第6期 8月25-30日
館林市立美園小学校 板倉町立東小学校 板倉町立西小学校 板倉町立南小学校 板倉町立北小学校	千代田町立西小学校 千代田町立東小学校 大泉町立南小学校	大泉町立北小学校 大泉町立西小学校 大泉町立東小学校 邑楽町立中野小学校	邑楽町立高島小学校 邑楽町立長柄小学校 邑楽町立中野東小学校 館林市立第一小学校	館林市立第二小学校 館林市立第三小学校 館林市立第四小学校 館林市立第五小学校 館林市立第六小学校	館林市立第七小学校 館林市立第八小学校 館林市立第九小学校 館林市立第十小学校

5年生児童全員が参加

ポスター



展示会場

◎主要関連記事(長文記事は末尾に*)

- 小学生木版画展
[新聞等]
・朝日ぐんま
7.20
「館林邑楽地区小学生木版画展」<イベント>
・おおたタイムス
6.30
「館林邑楽地区小学生木版画展」
・ぐんま広報
No.278
「日本を代表する木版画家「藤牧義夫」記念館林邑楽地区小学生木版画展」<イベント情報>
・上毛新聞
7.22
「元気いっぱい みんなの力作」
・上毛シャトル
8.7、8.14、8.21、8.28
「第4回日本を代表する木版画家「藤牧義夫」記念・館林邑楽地区小学生木版画展」<展覧会>
・博物館研究
529号
「日本を代表する木版画家「藤牧義夫」記念 館林邑楽地区小学生木版画展」<普及活動>
・渡良瀬通信
8月号
「館林邑楽地区小学生木版画展」<渡良瀬インフォメーション>
- 教育普及事業・その他
[新聞等]
・朝日新聞
3.12
「たてび木曜レクチャー「美術 寄り道 まわり道」」<群馬マリオンの>
10.2
「猫と道草、アートの旅」<郷土ゆかりのほん>
1.18
「たてび木曜レクチャー」<講座>
・おおたタイムス
12.22
「友の会2013ニューイヤーコンサート」
1.26
「美術を学ぼう 館林美術館」
・上毛新聞
4.1
「群馬の歴史、文化知って」
5.1
「美術・博物館 動画で紹介」
5.12
「AQUA SOCIAL FES!2012」
7.14
「行こう！夏のミュージアム！～スタンプラリー実施のお知らせ～」<ぐんまちゃんの掲示板>
7.24、8.1
「館林美術館創作体験コーナー「みんなのアトリエ」」<ぐんまちゃんの掲示板>
9.3
「学芸員を募集」
10.16
「下半期の会員募集」<ぶんか短信>
10.9
「中 平四郎」<ふるさと人物帳>
10.18
「県立館林美術館長 染谷滋さん「桐生倶楽部所蔵の絵画について」
10.21
「倶楽部所蔵の絵画語る」<お知らせ>
10.31
「学芸員が選ぶお気に入り 自由に感じ、楽しんで」*
11.13
- 「子どもギャラリートーク」<講座・講演>
3.16
「力合わせて大宇宙」
1.18、2.1、3.1
「たてびレクチャー」<講座・講演>
1.20
「美術館彩る筆の調べ」
1.23、3.5
「館林美術館たてび木曜レクチャー「美術 寄り道 まわり道」」<ぐんまちゃんの掲示板>
1.30
「作品で社会に問い」
2.26
「美術館で心自由に」<糸山秋子の街道を行く>
3.4
「美術館に鎮魂の音色」
・上毛シャトル
9.25、10.2、10.9、10.16
「根岸さんピアノ演奏 館林美術館友の会Autumn concert2012」
10.27
「美術館で美しい調べ」
12.5
「館林美術館友の会 2013ニューイヤーコンサート」
1.22
「文展と群馬の作家語る たてび木曜レクチャー」
2.19
「たてび木曜レクチャー」<講座・講演>
・讀賣新聞
2.24
「二つの「月」自然と調和 県立館林美術館」*
・群馬よみうり ビバ！アミーゴ
9.28
「館林美術館友の会Autumn concert2012」<イベントインフォメーション>
12.7
「2013ニューイヤーコンサート 県立館林美術館」
12.21
「たてび木曜レクチャー 美術 寄り道 まわり道」<イベントインフォメーション>
- [定期刊行物]
・足利漫我人
1・2月号
「県立館林美術館情報」
・OZ magazine Travel
11月号増刊
「群馬県立館林美術館」<アートスポット>
・第35回県民芸術祭報告集
5.31
「開館10周年記念「日本近代洋画にみる“自然と人間”」」<芸術鑑賞機会提供事業>
・広報 たてばやし
10.15
「「美術館の裏表」-美術館をもっと楽しむために-」<情報アラカルト 講演会>
11.15
「館林美術館ニューイヤーコンサート」<イベント>
12.1
「多々良沼周辺」<私の好きな館林の風景>
2.1
「散歩しながら芸術を楽しむ彫刻の小径鑑賞会」<学びの森>
・TOWNわたらせ
6.16
「ミュージアムショップグッズ 緑の芝生とカスケードの水辺が美しい」
・Deli-J
2月号
「美術館&博物館」

・東京アート&カルチャーさんぽ2012年

4.30

「群馬県立館林美術館」

・猫と道草、アートの旅 イノモト流ニッポンの美術館紀行

6.9

「シロクマがボンボンはねる」*

・ぴあMOOK保存版 日本の美術館ベスト240完全案内

9.30

「群馬県立館林美術館」<エリア別ミュージアムカタログ>

「群馬県立館林美術館 招待券」<読者プレゼント>

2012秋号

「群馬県立館林美術館」<近代の美への旅>

・美術手帖

5月号

<東京アートガイド2012>

・ぶらぶら美術館・博物館 おさんぽアートブック2012-2013

5.25

「永久保存版 目的別！全国おすすめ美術館・博物館100」

・渡良瀬通信

4月号

「レストラン イル・コルネット」

12月号

「戸谷成雄《景体のバロック》」<誌上 美術館>*

©群馬県立館林美術館平成25年度事業案内

B4判変形4つ折り

平成25年3月発行



M ボランティア

夏季の事業、「みんなのアトリエ 多版木版画摺り体験」の開催時に、以下のとおりボランティアを募集した。

期日	名称	人数
7.26-8.30	「みんなのアトリエ」制作補助ボランティア	52
8.12,8.18,8.25	「たてび☆びじゅつ部」制作補助ボランティア	7

N 友の会(群馬県立館林美術館友の会)

1. 運営会議

- (1)総会(6.23)
- (2)理事会(6.23)
- (3)運営委員会(3回 5.11、6.8、10.12)
事業の企画運営等具体的事項の協議

2. 美術館協力支援事業

- (1)ミュージアムショップの運営
展覧会図録、絵はがき、美術関係書籍その他の展示販売をとおして来館者へのサービスに努めた。
- (2)レセプションの開催(4.28、12.21)
美術館との共催

3. 会員対象事業

- (1)美術館情報の提供(4.4、5.25、7.6、9.6、10.24、12.5、3.6)
展覧会や美術講座等の広報資料や、友の会からのお知らせ等を随時郵送し、会員の美術鑑賞への参加と、会員による周辺の人々への広報、普及活動の促進を図った。
- (2)コンサートの開催(10.19、1.18)
根岸弥生(ピアノ)によるコンサートを開催した。参加者133名(10.19)
小林茂代(箏)によるニューイヤー・コンサートを開催した。参加者108名(1.18)
- (3)ミュージアム・ツアーの開催(11.17)
美術の鑑賞と会員相互の親睦を深めた。訪問先 ホキ美術館、参加者45名
- (4)館長レクチャー「美術館の裏側」(11.17)
参加者27名

A 美術作品

1. 作品収蔵状況 平成25年3月31日現在

作家区分 収蔵方法 部門	県内作家		国内作家			外国作家			総計	
	購入	寄贈	小計	購入	寄贈	小計	購入	寄贈		小計
日本画	4	1	5	1	1	2	0	0	0	15
油彩その他	7	0	7	18	3	21	6	0	6	34
水彩・素描	10	6	16	3	0	3	8	0	8	27
版画	22	0	22	289	252	541	52	0	52	615
写真	0	0	0	60	7	67	12	0	12	79
彫刻	5	0	5	4	4	8	125	0	125	138
染織・工芸	5	3	8	3	0	3	4	0	4	15
計	53	10	63	378	267	645	207	0	207	923

2. 平成24年度 収蔵作品

平成24年度においては、油彩その他1点(寄贈)、彫刻2点(寄贈)を新たに収蔵した。また、平成22、23年度に購入した挿絵本7点を新たに版画に登録した。以下、区分ごとに日本人作家、外国人作家の順番に分け、前者は50音順、後者はアルファベット順に配列している。

各作品データは、以下の順に記す。

- ・作者名(生没年)
- ・作品名
- ・制作年(日本人作家の場合は元号も付す)
- ・技法・材質(・形状)
- ・寸法(平面作品は縦×横、立体作品は高さ×幅×奥行(cm))
- ・サイン、年記、その他の記載事項
- ・発表展覧会
- ・受入種別
- ・受入番号

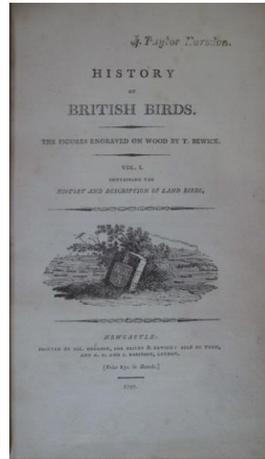
< 油彩その他 >

菊地武彦(1960~)
 KIKUCHI Takehiko
 線の気韻 1993-69
 1993(平成5)年
 岩絵の具、グワッシュ、黒鉛、鉄錆・紙
 227.0×364.0
 右下に年記とタイトルとサイン
 「1993 線の気韻 No.69
 きくちたけひこ」
 現代美術の展望 VOCA展'94(1994年)
 作者 寄贈
 916



< 版画 >

トマス・ビューイック (1753-1828)
 Thomas Bewick
 『英国鳥類誌』全2巻
 History of British Birds
 第1巻: 1797年刊行 第2巻:
 1804年刊行
 木口木版・紙(書籍)
 図版 220点、ヴィニェット、計222点
 22.7×13.7(ページサイズ)
 購入
 918



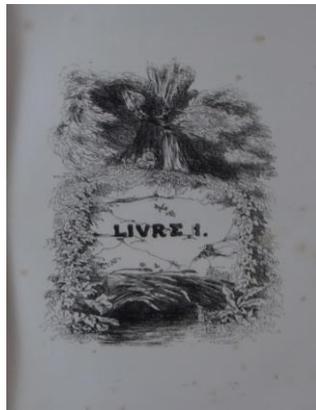
※図版は1巻扉絵

ガヴァルニ(1804-1866)
 GAVARNI
 恐るべき子どもたち
 Les enfants terribles
 刊行年不明(原画は1838~42年)
 リトグラフ、手彩色・紙(書籍)
 扉絵2点、図版49点
 33.9×27.3(ページサイズ)
 購入
 922



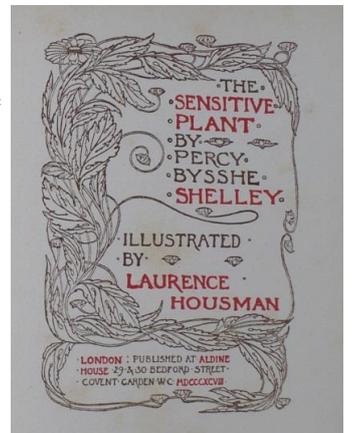
※図版は表紙

J.-J. グランヴィル(1803-1847)
 J.-J. Grandville
 『ラ・フォンテーヌの寓話』
 Fables de La Fontaine
 1838年刊行
 木口木版・紙(書籍2巻組)
 図版 120点(第1巻 72点/第2巻
 48点)
 21.6×14.0(ページサイズ)
 購入
 922



※図版は1巻扉絵

ローレンス・ハウスマン(1865-1959)
 Laurence Housman
 パーシー・ビッシュ・シェリー詩集
 『眠り草』
 The Sensitive Plant by Percy
 Bysshe Shelley
 1898年刊行
 ライン・ブロック・紙(書籍)
 扉絵1点、図版11点
 20.7×15.0(ページサイズ)
 購入
 920



※図版は扉絵

ローレンス・ハウスマン(1865-1959)

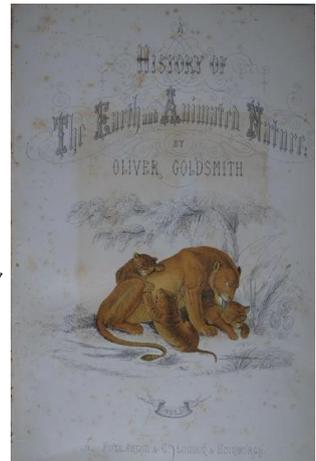
Laurence Housman
『月光とクローバー』
Moonshine and Clover
1922年刊行
木口木版・紙(書籍)
図版14点、扉絵、計15点
20.7×15.0(ページサイズ)
購入
921



※図版は表紙

オリバー・ゴールドスミス(1730?-1774)

Oliver Goldsmith
『大地と生物の自然史』全2巻
A History of the Earth and
Animated Nature
1824年以降刊行(初版は1774
年)
エングレーヴィング、手彩色・紙(書
籍)
図版73点 口絵2点、タイトルヴィネッ
ト2点、計77点
25.2×15.5(ページサイズ)
...



※図版は1巻扉

ウィリアム・ジャーディン編『博物学叢書』

William Jardine, The Naturalist's
Library
第13巻:鳥類学 ヒタキ類
第29巻:昆虫学 英国の蝶
1833-1843年刊行
エングレーヴィング、手彩色・紙(書
籍)
第13巻:図版31点 口絵、タイトル
ヴィネット、計33点
第29巻:図版34点 口絵、タイトル
ヴィネット、計36点
16.2×9.8(ページサイズ)
購入
919



※図版は13巻扉絵

<彫刻>

佐藤忠良 (1912(明治45)~
2011(平成23)年)
SATO Churyo
男の顔
1965(昭和40)年
ブロンズ
32.5×20.0×23.0
(石の台座:15.0×15.0×15.0)
首背面に年記とサイン
「1965 CHURYO」
小林進氏寄贈
915



高田博厚 (1900(明治33)~
1987(昭和62)年)
TAKADA Hakko
海
1962(昭和37)年
ブロンズ
77.0×34.0×29.0
基底部分上面に記載「H」
小林進氏寄贈
914



3. 平成23年度 寄託作品

作者名	作品名 (* 新規寄託) (** 年度途中に寄託解除)	制作年	技法・材質	寸法 (高さ × 幅 × 奥行cm)
伊庭靖子	Untitled	1995	油彩・カンヴァス	162.0 × 123.0
伊庭靖子	Untitled	1995	油彩・カンヴァス	162.0 × 123.0
伊庭靖子	Untitled	2001	油彩・カンヴァス	180.0 × 180.0
伊庭靖子	Untitled	2003	油彩・カンヴァス	120.0 × 160.0
藤牧義夫	達磨	1933	木版・紙	18.2 × 21.3
藤牧義夫	図案(都市風景)	1933	水彩・紙	23.7 × 28.8
藤牧義夫	高根山の松	1935	水彩・紙	28.8 × 23.6
藤牧義夫	(静物3・香爐)		鉛筆・紙	23.4 × 28.8
藤牧義夫	(風景3・ガスタンク)		水彩・紙	23.5 × 31
藤牧義夫	(男体山)		水彩・紙	×
藤牧義夫	(《給油所》印刷物)			×
新井一男	高根山より大小山を望む景		水彩・紙	23.5 × 28.8
藤牧義夫	井の頭風景	1934	木版・紙	14.8 × 16.9
藤牧義夫	面白き植物もあるかな(サボテン)	1934	水彩・墨	21.0 × 18.0
藤牧義夫	谷馬川の景	1935	水彩・紙	23.4 × 28.8
藤牧義夫	鶴の間の池	1935	水彩・紙	21.0 × 18.0
藤牧義夫	(風景1・とがった木)		水彩・紙	23.5 × 31.2
藤牧義夫	(《給油所》印刷物)			×
新井一男	(静物4・ろうそく)		水彩・紙	23.6 × 28.8
藤牧義夫	邑楽郡のある村を流るゝ矢場川		水彩・紙	23.5 × 28.8
藤牧義夫	尾曳見晴し	1934	水彩・紙	21.2 × 18.0
藤牧義夫	(静物1・りんご)		水彩・紙	23.6 × 28.8
藤牧義夫	(静物2・ろうそく)		水彩・紙	23.6 × 28.8
藤牧義夫	(風景2・丸い木)		水彩・紙	24.8 × 28.8
新井一男	(静物5・あさがお)		水彩・紙	28.6 × 23.6
藤牧義夫	葦	1958	木版・紙	21.7 × 18.8
清宮質文	むかしのはなし	1958	木版・紙	8.3 × 16.3
清宮質文	古い日	1960	木版・紙	17.2 × 14.2
清宮質文	幼きもの	1963	木版・紙	24.1 × 21.3
清宮質文	九月の海辺	1970	木版・紙	13.3 × 23.3
清宮質文	北辺の小屋	1971	ガラス絵	16.6 × 22.0
清宮質文	暗い夕日 (暗い夕日1)	1972	木版・紙	21.0 × 19.2
清宮質文	冬 (暗い夕日2)	1972	木版・紙	23.0 × 21.8
清宮質文	トンネルの出口 (暗い夕日3)	1972	木版・紙	23.4 × 20.1
清宮質文	虜囚の窓 (暗い夕日4)	1972	木版・紙	24.3 × 20.0
清宮質文	夕方の静物 (暗い夕日5)	1972	木版・紙	23.0 × 21.9
清宮質文	窓のカンテラ (暗い夕日6)	1972	木版・紙	24.2 × 15.0
清宮質文	入日 (暗い夕日7)	1972	木版・紙	16.2 × 25.8
清宮質文	町外れ (暗い夕日8)	1972	木版・紙	16.6 × 22.0
清宮質文	夕日の静物 (暗い夕日9)	1972	木版・紙	13.7 × 22.2
清宮質文	塚の中の魚 (暗い夕日10)	1972	木版・紙	20.0 × 22.6
清宮質文	深夜の蠟燭	1974	木版・紙	18.0 × 15.2
清宮質文	星占い ～去りゆく凶星～	1975	木版・紙	15.2 × 18.0
清宮質文	秋の夕日	1976	木版・紙	16.2 × 14.1
清宮質文	作品	1981	水彩・紙	10.0 × 16.0
清宮質文	黑夜の鳥	1982	木版・紙	12.5 × 14.0
清宮質文	われむかしの日にしえの年をおもえり	1982	木版・紙	15.2 × 13.0
清宮質文	夢の中へ	1983	木版・紙	15.5 × 6.8
清宮質文	失題 (モノタイプ)	1983	モノタイプ・紙	20.8 × 16.2
清宮質文	失題 (モノタイプ)	1983	モノタイプ・紙	19.3 × 11.2
清宮質文	失題 (モノタイプ)	1983	モノタイプ・紙	21.6 × 16.2
清宮質文	夕日のとり	1985	木版・紙	7.8 × 16.0
清宮質文	なんじの革囊にわが涙を	1985	木版・紙	17.5 × 16.9
清宮質文	晩夏	1985	木版・紙	6.8 × 7.0
清宮質文	秋の午後	1985	木版・紙	16.8 × 27.7
清宮質文	冬の夕 (絶筆)	1991	ガラス絵	12.2 × 16.2
清宮質文	未完(絶筆)	1991	ガラス絵	13.0 × 16.6
清宮質文	失題	1960年代	水彩・紙	14.8 × 11.8
清宮質文	歳月	1970	木版画	18.9 × 25.9
清宮質文	蝶	1963	木版・紙	24.6 × 22.1
清宮質文	眠り	1966	木版・紙	19.8 × 27.8
清宮質文	夏の終わり	1967	木版・紙	10.2 × 22.2
清宮質文	月と運河(試摺り)	1988	木版・紙	16.5 × 16.4
清宮質文	無題(未完)	1991	木版・紙	23.0 × 30.6
駒井哲郎	駒井哲朗のオマーージュ	1982	エッチング他	43.6 × 34.6
小磯良平				
清宮質文				
浜田知明				
西村盛雄	甘露の雨 マナ9	2002	木	37.0 × 220.0
勅使河原蒼風	わかれ	1963	鉄	120.0 × 33.0

作者名	作品名 (* 新規寄託) (** 年度途中に寄託解除)	制作年	技法・材質	寸法 (高さ × 幅 × 奥行cm)
勅使河原蒼風	群れ	1953	鉄	103.0 × 184.0
勅使河原蒼風	ビーナス	1957	木	68.0 × 65.0
勅使河原蒼風	クビ	1962	木	129.5 × 62.5
勅使河原蒼風	クサナギ	1967	銅	252.5 × 64.5
勅使河原蒼風	題不詳	不詳	銅	44.0 × 53.0
勅使河原蒼風	ミコ	1967	銅	96.0 × 49.0
和南城孝志	Archetypus円のイメージ	1981	大理石	20.0 × 50.0 × 50.0
和南城孝志	Archetypus空間への旅 I	1979	ブロンズ	12.0 × 35.0 × 35.0
和南城孝志	Archetypus空間への旅 II	1983	ブロンズ	10.0 × 30.0 × 30
山口啓介	花の心臓 / 蕊柱	2003	油彩・カンヴァス	270.0 × 181.0
松井冬子	同世代のエジプト人	2007	鉛筆・紙	43.7 × 36.7
松井冬子	トメス4世	2007	鉛筆・紙	36.2 × 44.1
カンノサカ ン	無題	2007	ウレタン、アクリル・パネルに貼られたカンヴァス	30.0 × 30.0
大竹利絵子	へび	2006	木	31.0 × 21.5 × 17.0
川島秀明	stare	2008	アクリル・キャンバス	50.0 × 72.7
日野之彦	パーマ	2007	鉛筆・紙	103.5 × 72.5
日野之彦	縞の服	2008	鉛筆・紙	101.6 × 50.4
会田誠	トラウマンボーイ02	2007	パネル、紙、色鉛筆、水彩絵具、油性マーカー	36.5 × 51.5
会田誠&加藤愛	愛ちゃん盆栽(ほおずき)小料理屋にて	2008	ラムダプリント	86.8 × 125.0
Chim Pom	イケてる人達みたい02	2008	Cプリント、DVD	31.0 × 31.0
加藤泉	無題	2009	油彩・カンヴァス	33.3 × 24.0
町田久美	ひとり	2003	雲肌麻紙・墨	130.0 × 97.0
森田恒友	漁村図	不詳	紙本墨画・軸	94.5 × 90.0
岸浪百草居	画卷(魚など)	不詳	紙本著色・卷子	24.0 × 625.9
津田青楓	山高水長画卷	1937	紙本著色・卷子	30.2 × 538.2
三輪途道	YUUKO	1996-2004	檜、漆、膠、白土、顔料	153.0 × 48.0 × 25.0
三輪途道	野辺の王様	1998	檜、漆、膠、白土、顔料	125.0 × 32.0 × 40.0
三輪途道	温度-H.MIWA-	1999	檜、漆、膠、白土、顔料	99.0 × 57.0 × 37.0
三輪途道	縄文からの道	2000	檜、漆、膠、白土、顔料	12.0 × 25.0 × 16.0
三輪途道	TOKYO-2000.1.12.Age60-	2000	檜、漆、膠、白土、顔料	102.0 × 50.0 × 28.0
三輪途道	猿を待ってた日	2000	檜、漆、膠、白土、顔料	23.0 × 16.5 × 23.0
三輪途道	下仁田ーおじい	2003	檜、漆、膠、顔料	79.0 × 59.0 × 64.0
三輪途道	下仁田ーおばあ	2003	檜、漆、膠、顔料	83.0 × 50.0 × 56.0
三輪途道	おじいの宝II(金歯の位置違い)	2003	檜、漆、金箔	3.0 × 7.5 × 5.0
三輪途道	おじいの抜け殻	2003	檜、漆、膠、顔料	14.0 × 44.0 × 38.0
三輪途道	猫の抜け道	2005	檜、漆、膠、顔料	25.0 × 68.0 × 14.0
三輪途道	発電所のなめくじ	2005	檜、漆、膠、白土、顔料	4.0 × 6.0 × 14.0
				5.0 × 8.0 × 20.0
				6.0 × 9.0 × 28.0
				13.0 × 10.0 × 18.0
				13.0 × 10.0 × 18.0
三輪途道	父子像	2007	檜、漆、膠、顔料	175.0 × 42.0 × 42.0
三輪途道	乳母と私II	2007	檜、漆、膠、白土、顔料	90.0 × 58.0 × 71.0
三輪途道	父子像II	2007	檜、漆、膠、白土、顔料	159.0 × 99.0 × 8.0
山口啓介	花の心臓 / 炭素原子モデル	2003	顔料、樹脂、自家製樹脂、アクリル・カンヴァス	270.0 × 181.0
中平四郎	讀賣	1924	木彫	60.0 × 34.0 × 25.0
掛井五郎	人間の問題研究III四つの足*	1985	ブロンズ	100.0 × 96.0 × 30.0
菊地武彦	線の気韻1993-69**	1993	岩絵の具、グワッシュ、黒鉛、鉄錆・紙	227.0 × 364.0
岡本健彦	風神・雷神*	1993	油彩、鉛、ステンレススチール、カンヴァス、合板	183.0 × 200.0 × 398.0
日野之彦	見つめ合い*	2011	油彩・カンヴァス	91.0 × 91.0
日野之彦	二人は走る*	2010	油彩・カンヴァス	259.1 × 193.9
アルブレヒト・デューラー	書斎の聖ヒエロニムス*	1514	エングレーヴィング・紙	24.4 × 18.8

4. 館蔵作品貸出状況

4-1. 館蔵作品貸出状況

作者名	作品名 (*印は寄託作品)	貸出先	展覧会名	会場・会期
金山平三	孀恋村	兵庫県立美術館	日本の印象派・金山平三	兵庫県立美術館 4.7-7.20
鶴岡政男	転がっている首	東京国立近代美術館	美術にぶるっ！ベストセレクション 日本の近代美術の100年 第2部 “実験場1950s”	東京国立近代美術館 10.16-1.14
清宮質文	蝶*	ミウラ・アーツ	清宮質文 版画と水彩作品 抄	ミウラ・アーツ 12.8-12.22

4-2. 館蔵作品移動状況

作者名	作品名	移動先	展覧会名	会場・会期
エマニュエル・コラン	大きなアザラン	群馬県立近代美術館	特別展示 こども+おとな+夏の美術館 うさぎと見るアート	群馬県立近代美術館 6.30-8.26
ハリー・フラナガン	仔象			
ナガン				
伊庭靖子	Untitled			

5. 保存・修復

作者名	作品名	技法・材質	種別	処置内容
フランソワ・ラフランカ	クアドレッラ	エンボス、石・紙	版画	紙の応変の原因となっている台紙と裏板を交換
	シェネアンフィ	エンボス、石、木・紙	版画	
	トナ	エンボス、石・紙	版画	
	YL	エンボス・紙	版画	
	ロヴァーナ・ディ・デントロ	エンボス、石・紙	版画	

B 図書資料その他

平成24年度 収蔵図書

種類区分	一般図書	定期刊行物	カタログ	年報目録	研究報告	その他	計
購入	234	111	72	0	7	0	424
寄贈	208	87	704	177	247	3	1,426
計	442	198	776	177	254	3	1,850

関係者および職員名簿

(平成 24 年 12 月 1 日現在)

群馬県立館林美術館作品収集委員

氏名	職名
雪山行二	富山県立近代美術館館長
水沢勉	神奈川県立近代美術館館長
横山勝彦	長野県信濃美術館・東山魁夷館副館長
古田亮	東京藝術大学大学美術館准教授

職員名簿

(平成 24 年 4 月 1 日～25 年 3 月 31 日)

館長	染谷滋
次長	上島孝二

<教育普及係>

教育普及係長	高木俊彰
主幹(事)	早矢仕智陽
主幹(事)	小林かおる
主幹(事)	高田晴夫
教育普及員	齋藤久美子
	澁澤友香莉
	羽鳥あゆみ
	最上雅世
	荒川幸代

<学芸係>

補佐(学芸係長)	中島幸子
主幹(学芸員)	谷内克聡
主幹(学芸員)	神尾玲子
副主幹(学芸員)	松下和美
学芸員(兼)	田中龍也(近代美術館副主幹)
資料整理員	伊羅子典代